

## ヨハン・ゴットリープ・シュテファニー作『劇場支配人』の台本を翻訳して —— 引用された作品の原典を同定する ——

野口秀夫

### 1. はじめに

鳥代：1幕の音楽付き喜劇《劇場支配人》<sup>注1</sup> K.486 はヨハン・ゴットリープ・シュテファニー（弟）Johann Gottlieb Stephanie d. J. (1741-1800) 作成の台本が、前半を音楽なしの演劇で、後半を声楽を交えた演劇で演じるように書かれているというのは、知識として知っていたけれど、ほとんどのCDが序曲と後半の声楽だけの抜粋で済ませていて、演劇部分をまったく割愛しているわね。

犬輔：それも、割愛しているという表記がないから、演劇部分を見捨てているに等しい扱いだ。でも、最近アーノクールがヴェルナー・シュナイダー編作の台詞入りCDをリリースしたので、少しはオリジナルに近づこうという動きも出てきたようだね。



図1 J・G・シュテファニー

鳥代：そのCD (2002)<sup>注2</sup>を聴いたけれど、煮え切らない対応なのよ。序曲が終わると現代風の演劇が始まり、そこでの台詞によればモーツァルト時代は昔話へと追いやられているわ。劇場支配人と俳優とが対話し、演題として《こうもり》や『イエーダーマン』、歌手名としてパヴァロッティ、劇場監督としてジェラルド・モルティエやイオアン・ホーレンダー、歌劇場としてパイロイトまでが話題にされ、そして、後半にモーツァルトの音楽が台詞を挟みながら続くのよ（全31分）。ここまでは不満ながら仕方がないとあきらめるとして、驚くのはその次なの。全編が終わったと思ったら、また序曲が始まるの。何事かと思って聴き進めていくと、そこからが音楽だけの《劇場支配人》なのね（23分）。つまりこのCDでは台詞付きの（オリジナル紛いの）《劇場支配人》はあくまでも試行版（お遊び？）であり、音楽だけの慣用的な《劇場支配人》が正規版（真剣勝負？）だと言いたいようね。

教授：LP時代（1966）<sup>注3</sup>にすでに演劇部分を現代風にアレンジしたものがあつた。アンドレ・プレヴィンの演奏で、彼の当時の妻ドリー（シンガーソングライター）による台詞・歌詞の英語版（全38分）だが、やはりこれもオリジナルを彷彿とさせるには程遠いものだった。

犬輔：1幕の音楽付き喜劇《劇場支配人》をオリジナル通り聴くことはできないのでしょうか。

教授：実はそれができるのだ。ブリリアントの「モーツァルト大全集」に所収の《劇場支配人》は音楽付き喜劇としての全曲盤だ。有り難いことにこの全集にはヘルムート・コッホ指揮によるベルリン・クラシックス録音（全63分）のもの<sup>注4</sup>と、ニコル・マツ指揮によるブリリアント・クラシックスのオリジナル録音（全74分）のもの<sup>注5</sup>との2種類がある。

鳥代：そんなにも偏在・集中していたのですか。ブリリアント全集の企画責任者はとりわけ高い意識をお持ちということですね。

犬輔：でも海外盤でしょう。海外盤には台詞の日本語訳が添付されていないから、ぼくにとっては猫に小判だなあ。そうだ、せめて翻訳だけでも参照できるサイトはないんでしょうか。

鳥代：オペラ翻訳プロジェクト<sup>注6</sup>というのがあって、かなりの作品がアップされていますよ。昨今の廉価盤オペラ全曲CDでは歌詞カード（原語・翻訳とも）を添付しないことが多くなっているから、このようなサイトを活用することで補完しなければならないのだわ。

犬輔：あれっ、そのサイトの《劇場支配人》のところには断り書きがある<sup>注7</sup>。「全訳を試みはしたもののあまりぱっとしない会話の物語展開（しかも長い台詞の上に結構難しい言い回し）なので早々に断念、音楽が登場する第7場以降のみ台詞も含めた全訳ができましたのでそこだけをアップさせて頂くこととしました」とのこと。ああ、がっかりだ。

教授：さあ、ここからが諸君たちの出番だ。自分たちで台本を翻訳してみる気はないかね。Google Booksには初版台本が、モーツァルテウムのリブレットのサイトには校訂された台本がそれぞれアップされている。そして、解釈に行き詰まったときのためにイタリア語対訳版を手元に置いておくことを老婆心ながら薦めておこう。

犬輔/鳥代：分かりました。随分難しそうですけれどチャレンジしてみましよう。

### 2. 翻訳を始めるに当たって

教授：翻訳を始める前に、台本を一瞥して気が付いたことを何でも言ってみたまえ。

犬輔：登場人物名“プーフ”と男声歌手“ブッフォ”の綴りが台本ではPufとBuffoとなっています。新全集の歌詞およびほとんどの文献ではBuffとBuffoなんですけど何故でしょう。

鳥代：モーツァルトの自筆楽譜を見ると台本と同じでPufとBuffoですよ。

教授：最終場に「Pufという名前にoを付ければBuffoになる」という歌詞があるのを盾にして、綴字通りに解釈した後世の人が、「Puf+o≠Buffo」であるのでPufは間違いである。一方、

Buffo-o=Buff が成立するので Buff が正しい」と登場人物の名前を勝手に“変更”してしまっただ。と言っても、そもそもオーストリア方言における b 音と p 音の揺らぎを許容すれば、どちらの表記でも同じなのだ。だから一般に流布してしまった Buff と Buffo を間違いだと糾弾することはやめておこう。

鳥代：週給をターラーで計算していますが、いくらに相当するのでしょうか。

教授：神聖ローマ帝国では通貨を比べる基準としてターラーを用いた。つまり通貨名ではない。1 Taler = 1 Gulden und 30 Kreuzer と言われているから、1 ターラーはおおよそ 1 万 5 千円くらいだ。例えば週給 4 ターラーは月給で約 24 万円相当ということになる。

犬輔：台詞の中に引用符がついているところが沢山あり、これは劇中劇の台詞であることを表しているのでしょうか、その劇中劇はどこかからの引用なのでしょうか。

教授：これはいい質問だ。劇中劇がシュテファニーのオリジナルなのか、どこかからの引用なのかという問題だ。だがこれに答えるには広範な調査が伴う。しかも翻訳作業をするためにはその調査を欠かすことができないという厄介な問題でもある。どうやら諸君たちはパンドラの箱を開けてしまったようだ。

犬輔：すみません、即座に質問を取り下げます！ 聞かなかったことにしてください。

鳥代：気弱な人ね。翻訳と同時に劇中劇の原典についても調査しましょう。

### 3. あらすじ

教授：まず、あらすじを表 1 に示すが、要約すれば「劇場支配人が劇団を結成し、新たなシーズンの公演を行なおうと奮闘する舞台裏の出来事を描いた作品」ということになる。

表 1 『劇場支配人』台本あらすじ

場	本文	劇中劇／劇中歌
第 1 場	劇場支配人フランクはまともなレパートリーを上演して失敗したあげく、ザルツブルク (!) 行きの新しい旅一座を組織する許可を得る。早速喜劇、バレエ、オペラを上演すべく人気俳優と歌手を募集することになったが、予算は週給で男性が 4 ターラー、女性が 2 ターラーに制限されている。失敗の経験に懲りない支配人は良い趣味の作品にこだわるが、古参の俳優プーフからは高収入を得るために最悪の演目こそが最高の演目だと諭される。	
第 2 場	そこに銀行家のアイラーがやってきて、女優として失敗した女友達のプファイル夫人を雇ってくれるなら劇団に資金を援助すると約束する。	
第 3 場	アイラーに同行して待たされていたプファイル夫人は早速契約交渉を進め、アイラーを俳優にしたのは私だと言って『煽られた夫 Der aufgehetzte Ehemann』からのシーンをアイラーと演じ、12 ターラーの契約を勝ち取る。	『煽られた夫』からのシーン 男二人がそれぞれ相手の妻を口説くことに合意する。しかし、男の一人は妻の健気さに接すると夫婦関係の立て直しへの期待が生じ計画を断念する。だが時遅し、妻から相手の男に口説かれてしまったと告白を受ける。不穏なやりとりか続き、妻からは相手の男へ一緒に復讐しましょうと丸め込まれる
第 4 場	悲劇女優として経験豊富なクローネ夫人が入ってきて、契約を迫る。支配人は悲劇では客が集まらなると突っぱねるが、集客は支配人の役目と聞き入れない。俳優のヘルツと一緒に演じる『ピアンカ・カペッロ Bianka Capello』のシーンを見てから判断してほしいと言う。	
第 5 場	ヘルツ氏が現われるとクローネ夫人は二人ですぐに『ピアンカ・カペッロ』の演技に入る。支配人は演技に感動して 14 ターラーで契約。プーフは支配人の軽率さに不満。	『ピアンカ・カペッロ』のシーン 相思相愛で駆け落ちまでした夫婦は、年月が経ち、どちらも不倫に染まり冷え切っているが、お互いの白状により嫉妬が再燃する
第 6 場	プーフの知り合いの女優フォーゲルザング夫人がやって来て、夫人の十八番である喜劇『利発な百姓娘 Die Galante Bäurin』のシーンをプーフと演じる。支配人は才能を認め、夫人の言いなりの 18 ターラーで契約してしまう。クローネ夫人がその金額に憤慨する。プーフは聴衆を泣かせるよりも率直に笑わせる方が難しいからと弁解する。フォーゲルザング夫人とヘルツ氏はそれぞれ歌手の連れ合いを呼んでくると言って退場する。	『利発な百姓娘』のシーン 年齢違いの結婚で遺産をせしめてくるから、それまで待っていてほしいと滔々と語る百姓娘。分け前を期待して成金を夢見る婚約者の百姓青年。両者の胸算用を滑稽に描写する

第7場	ヘルツ夫人が登場し、アリエッタで歌声を披露する。支配人が満足するのでヘルツ氏は妻に16ターラー、自分に14ターラーを要求し、その通りに決定する。	アリエッタ「別れの時が鳴っている」
第8場	劇団結成の話聞いたジルバークラング嬢がやってきて、申し込みのロンドを歌う。支配人は優秀な歌手2人が劇団に特別な価値を与えると喜び、16ターラーで契約する。	ロンド「凛々しい若い方！私は喜んで」
第9場	夫を連れて戻ってきたフォーゲルザング夫人を横目に、ジルバークラング嬢はヘルツ夫人の契約額が自分と同等であることを確認し、自分こそが第1歌手であると主張する。ヘルツ夫人はそれに抗議する。三重唱に入り、ジルバークラング嬢、ヘルツ夫人が言い争い、フォーゲルザング氏がそれをなだめる、結局、芸術に対する大きな犠牲は存在し得ないと歌い、三者が自らの主張を諦める。[楽譜上は主張が再燃する]	
最終場	プファイル夫人が、他の人に16ターラーも払って自分には12ターラーとは何事かとねじ込む。銀行家のアイラーが内証で最高額を払うと引き受ける。それを聞いた他の4人が怒り出したので、支配人は、こんなに面倒になってはと、劇団結成の中止を宣言する。そこでクローネ夫人が芸術のために心を合わせてやりましょうと申し出れば、みんなが賛同して終曲の<ヴォードヴィル>となる。それまで哀れな劇場支配人に適切な助言を与えてきたブッフオ俳優も、この場面で小さな独唱曲をもらい、大団円の中に幕となる。	

#### 4. 翻訳への注釈

犬輔：翻訳を始めると、面白い言い回しがいくつかあるのに気が付きました。それをメモしておきましょう。

##### 4.1 第1場「網で焼かれはしませんよ！」

犬輔：ハンスヴルストの故郷であるザルツブルクでの上演に劇場支配人が溜息をついているのが、ザルツブルクの聴衆の芝居に対する厳しさを認めてのことなのはいいとして、「網で焼かれはしませんよ！」というプーフの慰めの言葉はどういう意味なのでしょう。

鳥代：ヴルストすなわちソーセージの故郷だから、何でもかんでも網で焼かれると思うかも知れないけれど、ハンスヴルスト（道化役者）の故郷なのだから恐れることはないということでしょう。

##### 4.2 第1場「芸術はパンに向かうものだ」

犬輔：「芸術はパンに向かうものだ」という諺が引用されていますが、広く使われていたのでしょうか。

教授：この諺は16世紀のものだ。18世紀にはゴットホルト・エフライム・レッシング Gotthold Ephraim Lessing (1729-81) が悲劇『エミーリア・ガロッティ Emilia Galotti』(1772) で引用しているので、広く使われていたと考えていいだろう。

##### 4.3 第1場「世人は欺かるることを欲す。それ故にそれをして欺かれしめよ」

鳥代：ラテン語“Mundus vult decipi, ergo decipiatur.”は「世人は私に騙されたい。それ故に騙されるだろう」と訳せるわね。

犬輔：ラテン語引用辞典では「世人は欺かるることを欲す。それ故にそれをして欺かれしめよ」と訳しているよ。ニュアンスが異なるけど、後者で言い馴らされているならそちらで訳すべきかな。

##### 4.4 第3場「夫人は我々皆を手の内にしている」

鳥代：“Die steckt uns alle in Pantoffel. (直訳：彼女は私たち全員をスリッパに入れた)”はどういう意味なのでしょう。

犬輔：辞書には“unter dem Pantoffel stehen (直訳：スリッパの下に居る)”が「女房の尻に敷かれている」という意味の慣用句だと書いてあるよ。

教授：スリッパは昔女性だけが履いていて、女性たちがスリッパで男性を殴る、脅すことができたことからこの様な言い回しがあるということだ。したがって“Die steckt uns alle in Pantoffel”は「夫人は我々皆を手の内にしている」の意味だね。

#### 4.5 第3場「しっ！ しっ！ しっ！」

鳥代：“Tschu! Tschu! Tschu!”をどう訳すかしら。文脈からは軽蔑の間投詞のようね。

犬輔：辞書には「蒸気機関車の騒音のイミテーションの擬音」とあるけど……

教授：諸君たちは“チュウ・チュウ・トレイン Choo, choo train”（あるいは Tchou Tchou Train）という英語を知っているかな。かつてはニール・セダカ（「恋の片道切符 One Way Ticket」）が、最近では ZOO や EXILE がこの歌詞で歌っている。その意味は“しゅっ、しゅっ、機関車”、つまり“汽車ポッポ”のことだ。だが、モーツァルトの当時に蒸気機関車はなかった。

犬輔：辞書にはもう一つの意味が書いてあります。それは「家畜を呼んだり、家畜を追い立てたりするときと言う呼び声」です。この意味なら軽蔑の間投詞になりますね。

教授：このような時こそイタリア語の対訳を参照してみたまえ。

鳥代：はい…。そこは“Puh! Puh! Puh!”と訳されています。英語に重訳すると eugh あるいは ugh になるわ。Ugh は Webster 1913 によれば「嫌悪感、恐怖、または反動を表す感嘆詞。その発話は通常震えを伴っている」とあります。発音はウ〜でしょうか。

犬輔：結論として、翻訳は単純に「しっ！ しっ！ しっ！」にしておきましょう。（表4も参照）

#### 4.6 第4場「塩漬けニシン=道化役」

鳥代：“Pickelkering”は“道化役”ですが、これは英語で“塩漬けニシン”のことですよ。

教授：17世紀の英国喜劇からの移入語であり、オーストリアのハンスヴルストに相当する。

犬輔：ということは、ハンスヴルストの起源はイギリス喜劇なのですか。

教授：それについては回を改めてジングシュピールの歴史を紐解きながら議論しよう。

#### 4.7 第5場「私は君に触れるには相応しくない！」

鳥代：“Ich bin es nicht wert einmal den tiefsten Saum dieser Gewänder dich zu berühren! (私は以前のように衣服の最下部の裾に触れるには相応しくない!)”は故事に由来しているようですが……

犬輔：それはきっと聖書ですよ。

教授：そのとおり。“den Saum seines Gewandes berühren (直訳：彼の衣服の裾に触れる)”はマルコによる福音書5章25-34節からの引用だ。「さて、ここに12年間も長血をわずらっている女がいた。多くの医者にかかって、さんざん苦しめられ、その持ち物をみな費やしてしまったが、なんのかいもないばかりか、ますます悪くなる一方であった。この女がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろからみ衣にさわった。それは、せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思っていたからである。すると、血の元がすぐにかわき、女は病気がなおったことを、その身に感じた」から取られている。



図2 衣服に触れる

犬輔：『ピアンカ・カペッコ』では夫が妻に「私は君に触れるには相応しくない！ 以前のように君の衣服の最下部の裾に触れるには相応しくない」と言うのだから、繰り返し部分に聖書を引用して強調しただけのようですね。

鳥代：男女の化かし合いの台詞ですから、あまり真面目に考えなくてもいいということね。

#### 4.8 第6場「我らこれで貸借なし」

犬輔：『利発な百姓娘』の最後でミヒェルが“Nun geht eins mit dem andern auf”と言いますが、意味は何でしょう。

鳥代：その語句を検索してみましよう…。ありました。フィリップ・ネリコー・デトウーシュの5幕の喜劇のドイツ語訳版『大嘘つきあるいは騙された年寄りの愚か者 Der Erzlügner oder der alte betrogne Narr』(1772)にあります。でも、やはり何と訳したらいいのか分からないわ。恐らく成句なのでしょうけれど、他にヒットするものが一つもないのは不思議だね。

教授：『大嘘つき』台本のフランス語オリジナルを見てはどうかね。

鳥代：はい…。フランス語台本『大嘘つきあるいは騙された年寄りの愚か者 l'Archi-Menteur ou le vieux fou dupe』ではここが“Nous sommes quitte à quitte”となっています。1754の仏独辞書でこの語句を引いてみると、成句で“我らこれで貸借なし Wir wollen mit einander aufheben”と訳されています。成句としてのドイツ語表現はこちらが標準なのですね。

犬輔：ということは、シュテファニーの劇中劇『利発な百姓娘』では標準の成句表現ではなく、デトウーシュの『大嘘つき』の表現を敢えて参考にしたということが言えそうなんだ。

## 5. 劇中劇の原典を同定する

教授：翻訳作業は諸君たちに任せるとして、さあ劇中劇の原典の調査に入ろう。『煽られた夫』、『ピアンカ・カペッロ』、『利発な百姓娘』それぞれに、原典候補を挙げ、台本の該当部分を比較検討し、そして、一致・不一致を判定しよう。

### 5.1 『煽られた夫』(プファイル夫人：レディ・フラッター役/アイラー：サー・ハリー役) の原典

教授：まずはプファイル夫人/アイラーが演じる『煽られた夫』の原典だが、さて、どうやって探すかね。

犬輔：探し方は簡単です。さっき鳥代さんがしたように、台詞の一部を切り取って検索エンジンにかければいいのです。当たらずと雖も遠からずの候補が出てきますよ。例えば冒頭の“Nun will ich meines Freundes Lehren in Ausübung bringen”という台詞で検索してみましよう…。ありや、駄目だ。ヒットするのは《劇場支配人》そのものばかりだ。

鳥代：台詞の中にサー・ハリー Sir Harry とかメドウェイ卿 Lord Medway という名前が出て来るので、元は英語のお芝居なのではないかしら。この名前で検索してみてもはどうでしょう。

犬輔：その手があったか…。あっ、ダブリン生まれのフランセス・シェリダン Frances Sheridan (1724-66) 作の喜劇“The Discovery”が Google Books でヒットしました。この作品は 1763.2.5 にロンドンのドゥルリー・レーン劇場で初演されていますよ。本文を比較してみましよう。

表 2 劇中劇『煽られた夫 Der aufgehetzte Ehemann』と原典候補の比較

シェリダン “The Discovery” 第 2 幕第 1 場 (1763)	シュテファニー『劇場支配人』 劇中劇『煽られた夫』引用冒頭 (1786)
Now to put my lesson in practice — If I can but hit on the manner — I'll pretend not to see her at first — But if she should not come now — 'egad, that would disconcert the whole plan — Yes, faith, here she is; her Curiosity, nothing else I am sure, has brought her.	"Nun will ich meines Freundes Lehren in Ausübung bringen. Wenn ich nur den Ton recht treffe — Ich will anfangs gar nicht tun, als ob ich sie sähe — Wenn sie aber itzt käme — wahrhaftig, das verrückte mir mein ganzes Konzept. — So wahr ich lebe, da ist sie."
さあ、実践法を教授しよう——私は声の調子を整えて——最初は彼女に気付かないふりだ——だがもし彼女が来ないなら、いやはや、全計画が揺らぐ——おや、驚いた！彼女がここにいる。怪訝以外の何物でもない面持ちで。	「さあ、我が友に実践方法を教授しよう。私は声の調子を整えて——最初は彼女に気付かないふりだ——だがもし彼女が来なければ、本当に、全計画が揺らぐ——これは驚いた。もう彼女がいる」

犬輔：ドンピシャです。これが原典で間違いありません。最後の行が異なるのは英語からドイツ語への翻訳の誤差範囲ですよ。

鳥代：その行に“faith”とあるのは間投詞よ。アイルランド英語として、あるいはイギリス英語ではアルカイック表現として“faith: said to express surprise or emphasis.”という意味だわ。

犬輔：さっき誤差と言ったものの、ぼくには英語の原典の方が優れているように思われます。気のせいかもしれないけど。

教授：“The Discovery”のあらすじを示しておこう。



図 3 F・シェリダン

表 3 喜劇『The Discovery (判明した事実)』のあらすじ

若いルーザ・メドウェイは悪名高い鼻摘み者のサー・アンソニー・ブランヴィルと婚約させられている。父メドウェイ卿はレディ・フラッター（夫サー・ハリーとの喧嘩が絶えない）に手を出している（というもサー・ハリーはメドウェイ卿に相手の妻を相互に口説くことを提案し合意していた）。レディ・メドウェイはこれに気が付き、メドウェイ卿は過ちを贖うべきだ心に留め、フラッター夫婦間の調整を準備する。一方、息子のメドウェイ大佐はリッチー嬢と結婚する（これに先立ち、新婦の異父姉ナイトリー夫人の父がメドウェイ卿であると判明したことから、ナイトリー夫人は異父妹の結婚に一役買っていた）。揉めていたメドウェイ夫妻は和解する。彼らの祝福を受けて、ナイトリー夫人はアンソニー・ブランヴィルをルーザから引き離し、甥の方の若いブランヴィルと結婚させる。最後に、レディ・メドウェイによって改心したメドウェイ卿は、レディ・フラッターに夫サー・ハリーとの平穏な関係を取り戻すよう強く求める。

鳥代：“The Discovery”とは狭義には長年不明であった父娘の関係が“判明”したということ、芝居の中ではこの意味だけで出て来る言葉だけれど、広義にはそれぞれの登場人物の心の中（浮気を含めて）が“判明”するという事も包含しているのでしょうかね。

教授：トリビアだが、フランセス・シェリダンの息子は著名な劇作家リチャード・ブリンズリー・シェリダン Richard Brinsley Sheridan (1751-1816) であり、彼がトーマス・リンリー Thomas Linley (1756-78) のお姉さんのエリザベス・アン・リンリー Elizabeth Ann Linley (1754-92) と駆け落ち結婚したことを知っておくのも悪くない。トーマス・リンリーはモーツァルトと親交を結んだ同年齢のヴァイオリニストであり、作曲家であった。

犬輔：ところで、今までこの劇中劇の原典が喜劇『判明した事実 The Discovery』であることは、本当に知られていなかったのですか。素人でもこんなに簡単に検索できたのに。

教授：そうなのだ。クリストファー・レイバーンは<sup>注8</sup>『煽られた夫』の演劇に関するブルク劇場の記録調査は役に立たないことが明らかとなった。しかしタイトルが似ていて、同じジャンルの作品がたくさんあり、それらはすべて王政復古時代 [Charles II の在位期間 (1660-85)] およびその直後の英語の原典に由来している」とし、ジョン・ヴァンバーグとコーリー・シバーの『挑発された夫 The Provok'd Husband』(ヴィーンでは1786.1.5にブルク劇場で『手のひらをどのように返すか、または浮気な夫 Wie man eine Hand umkehrt oder Der flatterhafte Ehemann』(1778)として上演)を挙げている。この説が長らく受け入れられてきた。

鳥代：当てずっぽうに固有名詞を出してしまったものですね。反面教師として自戒しましょう。

犬輔：『判明した事実 The Discovery』を英語からドイツ語に翻訳したのは誰なんだろう。

鳥代：『18世紀の劇場定期刊行物』<sup>注9</sup>によれば1750-90にドイツ語圏で“Der aufgehetzte Ehemann (煽られた夫)”という出版物は発行されていないわ。でも、1773にヴィーンにて5幕の喜劇『賢明な夫人または結婚の学校 Die vernünftige Frau oder die Schule des Ehestandes』が出版されていて、これが『判明した事実 The Discovery』のドイツ語版なのよ。そこにはオリジナル台本が何かの表記もなければ翻訳者の表記もないのですけれどね<sup>注10</sup>。

犬輔：えっ、ドイツ語訳の出版があったんですか。どうやって検索したんですか。

鳥代：劇中劇に出てくる“Der Henker hole mich”をどう訳すかの用例を検索していて偶然見つけたの(“Der Henker hol's!”は相手に対して“畜生め!”ですけど、こちらは自分に対してですから、“しまった!”または“いまましい!”と訳せばいいのでしょうか…)。

犬輔：でも、ぼくが台詞を切り取って検索してもヒットしなかったのは何故なんだろう。

教授：この版がシュテファニーの訳とは微妙に異なっているからなのだ。一部を紹介しておこう。

表4 『判明した事実』翻訳比較

『判明した事実』 (1763)	『賢明な夫人または結婚の学校』 (1773)	『劇場支配人』劇中劇 (1786)
Sir HARRY Tchou, tchou, tchou. (Feering her) [...] Rat me but a man had better be a galley-slave, than married to a simpleton that ought to be sewing her sampler.	GRAF Hufch! hufch, hufch, hufch! [...] Der Henker hohle mich, ein Mann thäte beffer, er würde ein Galeeren fclave, als daß er ein einfältiges Ding heirathete, die zu nichts nütze ift als Knotten zu fchlagen, oder, Gold zu zupfen. --	EILER "Tschu! Tschu! Tschu!" [...] "Der Henker hole mich, man täte besser, man würde ein Galeerensklave, als dass man sich so ein einfältig Ding an Hals hängt, das zu nichts nütze ist, als ein Schnupftuch zu säumen."
サー・ハリー しっ、しっ、しっ。(彼女を怒らせて) [中略] 信じてくれ。だが、男だったら見本品を縫わされている能天気なお針子と結婚するより、ガレー船の奴隷になる方がましだろうに。	伯爵 しっ! しっ、しっ、しっ! [中略] いまましい。男であれば、裁縫あるいは金の箔打ちしか頭のない娘っ子と結婚するよりはガレー船の奴隷になる方がまだましだろうに。	アイラー (サー・ハリー役) 「しっ! しっ! しっ!」[中略] 「いまましい。整えられたハンカチのように単純で無駄なものを首に掛けるくらいなら、むしろガレー船の奴隷になる方がまだましだと誰もが思うだろう」

鳥代：シュテファニーは両方の台本を元にして自身で翻訳したと考えることができるのではないのでしょうか。そこに上述の“首吊り役人 Henker”が出て来るのがその手掛かりですね。

## 5.2 『ビアンカ・カペッロ』(クローネ夫人：ビアンカ役/ヘルツ：ボナヴェントゥーリ役)の原典

鳥代：『ビアンカ・カペッロ、5幕の悲劇、A・G・マイスナーに基づくF・Jによる自由な編作』(ライプツィヒ1786)という台本がGoogle Booksでヒットしました。

犬輔：その台本はレイバーンによればアウグスト・ゴットリーブ・マイスナー August Gottlieb Meißner (1753-1807) の同名の小説(1784)をヨハン・フリードリヒ・ユンガー Johann Friedrich Jünger (1756-97) が翻案した悲劇(1786)で、彼はこれが原典だと言っています。

教授：『18世紀の劇場定期刊行物』によればマイスナーの名の下に何回か出版がなされている。それらがユンガーの翻案によるものである可能性はあるものの、レイバーン以外のモーツァルト研究者はマイスナーの名前しか挙げていない。じっさいシュテファニーがどちらを原典としたのか、台本に当たって調べてみたまえ。



図4 A・G・マイスナー

犬輔：はい、マイスナーの小説もGoogle Booksにありましたので三者を比較しましょう。

表 5 劇中劇『ビアンカ・カペッコ Bianca Capello』と原典候補の比較

A・G・マイスナー 小説『ビアンカ・カペッコ』 252-253 ページ (1784)	J・F・ユンガー 『ビアンカ・カペッコ』 第 3 幕第 3 場 (1786)	シュテファニー『劇場支配人』 劇中劇『ビアンカ・カペッコ』 引用冒頭 (1786)
<p>Er stand daher eine Minute stillschweigend vor ihr, und da sie ihn kaum zu bemerken schien, konnte er sich nicht der Frag entbrechen: "Warum so äußerft ernfthafft? – Warum wohl gar traurig, liebe Bianka?" BIANKA. Ich denke diefem Abende nach. BONAVENTURI (aufmerkfam werdend) Diefem Abende? - BIANKA (mit einem ernfthaften Kopffchütteln.) O es ift eine feierliche Nacht, Bonaventuri, diefe heutige Nacht nicht fowohl ihrer felbft willen – fie müfte denn dies noch werden – als vielmehr ihres Andenkens halber.</p>	<p>BONA. Warum fo äußerft ernfthafft? – Warum wohl gar traurig, liebe Bianka? BIAN. Ich denke der Nacht unferer ehelichen Verbindung nach - diefer Nacht, wo ich mit einem Schauder, der alle Gebeine durchbebt, bey der Rückkehr von unferer zärtlichen Unterredung, die väterliche Haushüre verfehloffen fand – umkehrte, und in deine Arme floh!</p>	<p>HERZ. "Warum so äußerft ernsthaft – wohl gar traurig, liebe Bianka?" MADAME KRONE. "Ich denke diesem Abend nach." HERZ (aufmerkfam werdend) "Diesem Abend?" MADAME KRONE (mit einem ernsthaften Kopfschütteln) "O es ist eine feierliche Nacht, Bonaventuri, diese heutige Nacht! – Nicht sowohl ihrer selbst willen – sie müsst es denn noch werden – als vielmehr ihres Andenkens halber."</p>
<p>それで彼はしばらくの間彼女の前に立っていました。彼女は彼にほとんど気付いていなかったの、彼はなかなか質問を発することができませんでした： 「どうしてそんなに極端に深刻なのか？ – どうして悲しいのか、愛するビアンカ？」 <b>ビアンカ</b> 今晚のことを考えているのです。 <b>ボナヴェントゥーリ</b> (注意深くなって) 今晚？ – <b>ビアンカ</b> (頭を大きく振って) ああ、厳肅な夜です、ボナヴェントゥーリ、今夜はそれ自身の理由からではなく – むしろその記憶の理由からの – 夜でなければならぬでしょう。</p>	<p><b>ボナヴェントゥーリ</b> どうしてそんなに極端に深刻なのか？ – どうして悲しいのか、愛するビアンカ？ <b>ビアンカ</b> 私たちの夫婦の結婚の絆が誕生した夜について考えています。その夜、私たちの優しい会話の再開を念じて父がドアを開けていたので、私たちは戻ってきて、あなたの腕に飛び込みました！</p>	<p><b>ヘルツ</b> 「どうしてそんなに極端に深刻なのか – 悲しいのか、愛するビアンカ？」 <b>クローネ夫人</b> 「今晚のことを考えているのです」 <b>ヘルツ</b> (注意深くなって) 「今晚？」 <b>クローネ夫人</b> (頭を大きく振って) 「ああ、厳肅な夜は、ボナヴェントゥーリ、今夜ですよ！ – その夜はそれ自身の理由からではなく – むしろその記憶の理由からの – 夜でなければなりません」</p>

鳥代：レイバーンの説明とは異なり、明らかにマイスナーの小説を引用しています。ところどころシュテファニーが表現のニュアンスを変えているところは洗練されていますね。

教授：ところで、『フランチェスコ・デ・メディチの妃、ビアンカ・カペッコの生涯』と題してドイツ語版から英語版を作成したコンラッド・ラジャーは底本としてマイスナーではなくヨハン・フィリップ・ジーベンケース Johann Philipp Siebenkees (1759-96) の伝記を用いている<sup>注11</sup>。その理由を翻訳者自身による序文から読み取ってみよう。

表 6 英語版『ビアンカ・カペッコの生涯』翻訳者の序文から

私は [ウィリアム・] ロスコー氏の有名な「ロレンツォ・デ・メディチの生涯」を熟読していますが、二人のドイツ人作家の作品を支持します。二人は両方ともビアンカ・カペッコの歴史を書いています。その一つが [アウグスト・ゴットリーブ・] マイスナーによるものです。それは一種のドラマ化された歴史、半分が対話、半分が物語です。そのスタイルはエレガントで、全体の計画は素晴らしいドラマチックな手腕でレイアウトされています。そしてシーンのいくつかは興味深く、情熱と生気に満ちています。しかし、これらすべての利点を考慮に入れても、上演は最も望ましいもの——真実——を求めます。歴史家は大いにこの詩人を甘やかしてしまったのです。

もう一つは、[ヨハン・フィリップ・] ジーベンケースによるものです。彼は自分の競争相手のような美しさを誇示しようとしませんでした。というのも、歴史自身の貞淑で単純な服装だけが彼にとっての唯一のガイドであり、空想的なミュージズの微笑みを訴えることを軽蔑したからです。典拠（ジーベンケースが引用した）や厳格な検証（彼が課したもの）が私に、彼の作品の翻訳をするという冒険を促しましたが、ロスコーの「ロレンツォの生涯」の傍らに置くことを作者自身恐らく強要しないと思われまふ。一般の方からの好意的なご意見をお待ちしています。


パイナップルは多くの絶妙な果物の味と風味を結合します。しかし悲しいかな！ それは温室の豊かな土の中でのみ成長し、そして偉人の食卓のみを飾ります。普通のリンゴには自慢の味が 1 つしかありません。しかし、私たちの果樹園はそれをたくさん作り出しています、そしてそのたくさんはあらゆる階級の人たちに役立ちます。



犬輔：マイスナーの小説は素晴らしいけど、歴史に忠実ではないところがあるので底本としては採用しないということなんですね。これが 1797 年の序文だと聞いてその方針の斬新さに感服しました。

鳥代：ビアンカの略伝を Wikipedia から引用しておきますが、スキャンダラスな記述が多く、これが歴史にどれだけ忠実かについては忸怩たるところがあるわね。

表 7 ビアンカ・カペッロ略伝

	<p>ヴェネツィアの裕福な貴族であるカペッロ家出身のビアンカは 15 歳で、銀行家に仕えるピエトロ・ボナヴェントゥーリというフィレンツェ人と恋仲になり、1563 年 11 月に駆け落ちして結婚、フィレンツェで長女を生む。ヴェネツィア政府は、実家を出奔したビアンカを連れ戻して逮捕しようとあらゆる努力を重ねたが、トスカーナ大公コジモ 1 世が妨害した。</p> <p>しかし、フィレンツェでの生活は必ずしも幸せなものではなかった。そのうち彼女は、危険で節操がないと評判の大公太子フランチェスコ（フランチェスコ 1 世・デ・メディチ）に見そめられた。フランチェスコには身分が高く魅力的な妃ジョヴァンナがありながら、彼はビアンカを誘惑し、宝石・金といったあらゆる贈り物を買いだ。また、ビアンカの夫ピエトロも宮廷に雇われ、次第に宮廷の見目麗しい貴婦人たちとの情事に溺れるようになった。1572 年、彼はいくつかの痴話喧嘩に巻き込まれた末フィレンツェの路上で殺された。ビアンカとフランチェスコがピエトロを消すよう暗躍したと囁かれた。</p> <p>1574 年に父のコジモ大公が死にフランチェスコがトスカーナ大公となると、彼は晴れて堂々とビアンカをそばにおき、妃ジョヴァンナにそれをあてつけ、ビアンカへの寵愛がジョヴァンナよりも勝ることを見せつけた。ジョヴァンナが生んだフィリッポ大公が幼くして 1582 年に亡くなると、男子のいないフランチェスコのために自分が男の子を産みたいとビアンカは切望するようになった。</p> <p>1578 年にジョヴァンナが死ぬと、わずか 2 か月後にフランチェスコはビアンカと正式に結婚した。ヴェネツィア政府は、ビアンカの存在がトスカーナ大公国との良好な関係を保つために重要であることを認識し、公的に大公の再婚を祝福した。しかし子宝はビアンカになかなか授からず、彼女は夫が自分より先に死ぬばメディチ家、特に彼女を激しく嫌う義弟フェルディナンド枢機卿（フェルディナンド 1 世・デ・メディチ）が自分を邪魔者にするを知っていた。</p> <p>1587 年 10 月にポッジョ・ア・カイアーノにある別荘でビアンカとフランチェスコは相次いで急死する。長い間、歴史家たちの間で死因が毒殺か、マラリアに感染したための病死か、意見が割れてきた。少なくともフランチェスコに関してはマラリアが死因とする報告が 2010 年に発表された。彼女の遺体はフランチェスコとは別の場所に葬られ、行方不明になって今日に至っている。</p>
---	---

教授：またまたトリビアになるが、1585.3 にトスカーナ大公国を訪問した天正遣欧少年使節の伊東マンショが舞踏会でビアンカと踊ったという記録が残っている。

### 5.3 『利発な田舎娘』（プーフ：ミヒェル役/フォーゲルザング夫人：レーシェン役）の原典

教授：さあ、この作品の原典の調査は一筋縄ではいかないことを覚悟したまえ。

犬輔/鳥代：改めて、机の上を整理して資料スペースを確保しました。また英・仏・独・伊辞書も手元に揃えました。でも、やはり Web 検索が一番威力を発揮してくれると思います。

#### 5.3.1 女優マリーア・アンナ・アーダムベルガーが主役を演じた作品から

鳥代：レイバーンは『利発な百姓娘 Die Galante Bäurin』のレーシェンとミヒェルはブルク劇場のレパートリーであったヨハン・ラウテンシュトラウフの喜劇『弁護士と農夫 Der Jurist und der Bauer』（1773）の人物でもあり、その劇中で、フォーゲルザング夫人役の女優マリーア・アンナ・アーダムベルガー Maria Anna Adamberger (1753–1807) がロジーネとして自身の大成功を祝った。しばしばこの芝居は『レーシェン』と呼ばれた」とした上で「シュテファニーはシーンのみを当代の作品に基づき、ほとんどの対話を自分自身で書いた」と結論付けている。



図 6 ロジーネに扮した M・A・アーダムベルガー

犬輔：なるほど。フォーゲルザング夫人の台詞に「『利発な百姓娘』のシーンを」忘れる筈がありません！ それは私のお気に入りシーンの一つで、私の十八番です。そう、私のために書かれたのです」とあることがそれと符合していると考えたわけですね。確かに喜劇『弁護士と農夫』は M・A・アーダムベルガーの当たり役で、ロジーネに扮した舞台姿をアントン・ヒッケル Anton Hickel が肖像画にしました。現在もブルク劇場の名誉ギャラリーで見ることができます（図 6）。

鳥代：では本当に候補になりうるかどうか確認しましょう。表 8 です。



表 8 M・A・アーダムベルガーの出演作品(1)

No.	台本名	原典候補の判定項目	判定
1	ヨハン・ラウテンシュトラウフ台本 2 幕の喜劇『弁護士と農夫 Der Jurist und der Bauer』 (1773)	×恋人同士の対話なし ○バスケット持参 △ミヒェルとロジーネ	×
	百姓娘ロジーネとロジーネ家の下僕ミヒェルが登場しますが、劇中劇と決定的に異なるのは、ロジーネとミヒェルの二人による絡みがないことです。但し似た場面はあります。ロジーネが弁護士ランツェの事務所に大きなバスケットを持って来て「おはようございます！」と挨拶をし、「手続きしたいのはレムバッハ在住の私の父です。父は私をここに送って、どうやってそこを去るか弁護士さんに教えていただくようにと言われました - そして弁護士さんが健康のために召し上がるようにと氷といくつかのスモークペーコンがいっぱい入ったかごを私に持たせました」と話すところです。ロジーネはランツェを密かに愛するようになり、その発覚後ミヒェルの嫉妬を受けるのですが家族の目の前なのでそれ以上の騒ぎにはならず、結局は収まります。		

教授：これは違うね。となれば、M・A・アーダムベルガーが出演したほかの芝居が原典の候補になるかも知れないね。続けて調べてみてはどうか。

犬輔：えっ、続けてですか。きついお言葉ですね。仕方ありません。表 9 にリストアップしましょう (しぶしぶ)。

表 9 M・A・アーダムベルガーの出演作品(2)

No.	台本名	原典候補の判定項目	判定
2	フィリップ・ネリコー・デトゥーシュ原作 ルイーゼ・アーデルグンデ・ヴィクトリー・ゴットシェド台本 5 幕の喜劇『詩的な土地貴族 Der poetischen Dorfjunker』 (ウィーン 1761)	×恋人同士の対話なし ×酒飲みのミヒェル	×
	三角関係のヘンリエッテ、トロイエンドルフ (ニクラス) 氏、マサーレン氏が登場。トロイエンドルフ氏にはミヒェルという酒飲みの下僕がいますが、これらの登場人物は饒舌な会話をするのみでカップルの絡みの場面はありません。		
3	ゴルドーニ原作 フリードリヒ・シュレットルン台本 5 幕の喜劇『正直は良いこと Wahrheit ist gut Ding』 (ウィーン 1781)	○恋人同士の対話あり ×妖精物語的対話	×
	妖精物語好きの姉フリーデリケとヴィンター氏、悲劇好きの妹ルイーゼとベルガー氏という二組の恋人が出てきます。絡みは前者のカップルのみ第 3 幕第 3 場にあります。コーボルト王子 (フランスのお伽噺) や冬の妖精 (ヴィンターに掛けて) のような他愛のないテーマの会話で終始します。		
4	モリエール原作 ウィリアム・ウィチャーリー編作 ベルンハルト・クリストフ・ド・アリエン台本 4 幕の喜劇『田舎娘 Landmädchen』 (1799)	×1786 以降	×
5	シャルル・シモン・ファヴァール原作 フランツ・クサヴァー・フーバー台本 ジュースマイヤー音楽 2 幕の音楽喜劇『ゾリマン 2 世 Soliman den zweiten』 (1801)	×1786 以降	×

犬輔：結局、M・A・アーダムベルガー関連の芝居に原典候補はなさそうなことが分かりました。フォーゲルザング夫人の台詞は思わせぶりなだけだったんだ。

### 5.3.2 ミヒェルあるいはレーシェンが登場する作品から

鳥代：では、M・A・アーダムベルガー関連以外で、ミヒェルあるいはレーシェンが登場する芝居を候補として調査するのはどうでしょうか。

教授：最初の劇中劇の原典が登場人物の名前から割り出されたことから、その手を使うのは諸君たちにとっては当然だろうが、果たして柳の下に泥鰌はいるだろうか。

犬輔：いやなことを仰いますね。今気が付きましたが、ミヒャエルではなくミヒェルだったんだ。ミヒャエルだとばかり思っていました (表 9 では無意識にミヒェルを使っていました)。これは検索の重要な手がかりになりえますよ。早速“Michel Röschen”で検索してみましょう…。ありや、書籍に限定すると意外に少ないですね。では、選り分けが大変ですけど書籍だけでなく、全てのサイトを対象に検索しましょう。結果を表 10 にまとめます。

表 10 ミヒェルあるいはレーシェンが登場する作品

No.	台本名	原典候補の判定項目	判定
6	クリスティアーン・ヤーコプ・ヴァーゲンザイル台本 散文エッセイ『恥ずかしい節約家 Der beschämte Geizhals』 (1786)	○Mi と Rö はカップル ○挨拶から始まる ×筋が全く異なる	×
	ミヒェル「ああ驚いた、レーシェン。こんな早くにどこに行っていた？」レーシェン「こんにちは、ミヒェル！」ミヒェル「憂鬱な“こんにちは！”だ。何があった？」レーシェン「ああ！母が亡くなりました」。という会話に続き、廷吏から母の借金を返さなければ塔に閉じ込めると言われていると明かします。ミヒェルはコートを買いに町に行こうとしていたのでお金を持っている、それを使ってくれと申し出ます。「ぐずぐずしてはいけません、良いことをするのに、多くを尋ねる必要はありません。紳士なら手間取るかもしれませんが、私たち農民はそのようなことはしません。ミヒェルはまっすぐ、あっさりと、大騒ぎしません」と言います。お金を届けにきたレーシェンに廷吏はその出所を尋ねます。レーシェンは「それは私が一生かかってもすることができなかつたことができる人、そして私が将来彼に十分に返済することができることを知っている人」と答えます。それが一人の農夫であることを知った廷吏は自らのけちを恥じ、レーシェンとミヒェルの婚約を祝うのです。		
7	クリスティアーン・フェリックス・ヴァイセ台本 3 幕の喜歌劇『狩り Die Jagd』 (ライプツィヒ 1778)	×Mi と Rö は父娘 ○リンゴ ○校長先生	×
	レーシェンはミヒェルの娘。リンゴや校長先生というキーワードは共通。		
8	カール&テオドル・コールスホルン編 ハノーファーの民話集から『白い山羊 Der weiße Ziegenbock』 (ハノーファー1854)	×Rö と既婚の Mi ○老人との財産目当て結婚 ○玉の輿	×
	採取は 19 世紀だが、18 世紀から伝わる民話と思われる。「むかしむかしレーシェンという小さな女の子がいました。9 歳の時両親が死に、道路で泣いているところを老女に引き取られました。15 歳になった時、その恩人が病に臥し、看病したことから、老女は彼女にすべての財産を与えようと思っていました。そこへ以前は金持ちだったけど今はすべてを失った高貴な紳士がやってきて、老女と死床で結婚したため、全部が彼のものになってしまいました！レーシェンが老女の家を出ると、道路は牧草地や野原を通って森に続いていました。そこで炭焼きの夫婦ミヒェルとミーケに出会い、住み込みます。夜寝ていると山羊が窓のところに来てドアを開けて額と口にキスをしてほしいと訴えました。毎夜のことでしたので三日目に彼女はドアを開けて裏庭に出て行きました。すると白い山羊はたいそう美しい王の息子になったのです。王の息子は震えている乙女を抱きしめてこう言いました：『あなたは私を助けてくれた、そして今は私の妻です。今すぐ馬車に乗り、300 マイル旅行しなければなりません』。三つの森を抜けていくとき道草したレーシェンは馬車を見失いました。しかし、ついに彼女はまっすぐ進む道をつかみ、そしてエプロンの中に黄金の花と果物を持っていました。何千人もの兵士が彼女を探しに来た時彼女は身を隠しました。約 2 週間後、レーシェンは王の町にやって来ました。さあ結婚式の準備です。レーシェンは炭焼き夫婦ミヒェルとミーケを呼んでくることを望みました。結婚式は素晴らしさと栄光で祝われました。しかし醜い王女だけがそこに残り、若い女性を中傷し、そして彼女の破滅を熟考しました。醜い王女は丸い庭に非常に美しい小屋を建てました。それを 3 回回す者は、年取った魔女に魅入られて、空中に飛び、そして世界中に飛んでいくのです。すべての準備ができたとき、彼女はレーシェンに小屋を見るように誘いました。醜い年取った王女は小屋を 3 回回転させ、レーシェンを空中に飛ばして去りました。気が付くとレーシェンは海の崖の上に座っていました。ここで彼女は三日三晩座り、食べるものも飲むものもありませんでした。そして彼女が頭を上げて見上げると、それは死神ではなく鳥のグリフィンでした。彼は身を下げ、大きな爪で彼女を掴み、海から陸地の上へと運び、王の息子がかつて白い山羊になったところに着地しました。そこは、森の真ん中に大きな池があり、水の女が住んでいました。グリフィンは彼女に言いました：『レーシェンをここにずっと留めなさい、私はすぐ戻ってきます』。そしてすべての木が轟音を出し、そのような嵐は翼を震わせました。水の女は若い王に歌を歌い、静かに、静かに、そしてますます大声で歌いました。その歌は若いレーシェンの物語でした。ようやく彼女の名前を歌ったとき、若い王は深呼吸をし、彼の目は開かれ、彼はレーシェンの前で泣いていました、そしてそれはまるで彼が重い夢から目覚めているかのようでした』		
9	ヨハン・クリスティアーン・クリューガー台本 1 幕の喜劇『ミヒェル大公 Herzog Michel』 (1750)	△Mi とハンヒェン ○捕らぬ狸の皮算用 ×男女の設定が逆	×
	ミヒェルはナイチンゲールの売却から最大の利益を上げることを望んでおり、愚かにも恋人のハンヒェンに対して公爵を演じます。鳥は逃げてしまいました、愛する二人はまるで牧歌的試合のあとのように和解します。最後にミヒェルは「君は僕の公国、僕のビール、僕の焼き豚」と言う。非常に無害で愚かな三人芝居です。		

敢えて Michael で改めて検索する必要はないですね。あくまでも Michel という名前がキーワードだと思われそうですから。

### 5.3.3 フランス語の台本から

犬輔：ミハエルでなくてミヒエルが使われているのは、元々はミシェルというフランス名だったのかも知れない。それに、二つの劇中劇がそれぞれイギリス人、イタリア人が主人公の芝居だったから、三つ目にフランスの芝居が来ればバランスがいいですね。

教授：なかなか目の付け所が鋭い。ではどうやって探すかね。フランス語は得意ではないだろう。

犬輔：シュテファニーの台本がヒントです。第 1 場でコメディ・フランセーズの女優マドモアゼル・クレロン (1723 生) に言及がありました。この女優の出演作を調べてみるのです。

鳥代：そうね。シュテファニーはイギリス人の俳優としてはデイヴィッド・ガリックを挙げています。彼はとりもなおさず一つの劇中劇 **The Discovery** の初演俳優でしたから。クレロンも同じように三つ目の劇中劇の俳優かも知れませんね。では、クレロンの出演した芝居を表 11 にリストアップして検討しましょう。

表 11 コメディ・フランセーズのマドモアゼル・クレロンが出演した作品

No.	台本名	原典候補の判定項目	判定
10	ジャン・ラシーヌ台本 悲劇『アンドロマック <i>Andromaque</i> 』(1743)	×悲劇	×
11	ギリシア神話を題材にジャン・ラシーヌ台本 悲劇『フェードル <i>Phèdre</i> 』(1743)	×悲劇	×
12	ピエール・ド・マリヴォー台本 悲劇『アンニバル <i>Annibal</i> 』(1747)	×悲劇	×
13	エウリピデスのギリシア悲劇によるジャン＝フランソワ・マルモンテル台本 悲劇『ヘラクレスの子供たち <i>Les Héraclides</i> 』(1752)	×悲劇	×
14	ヴォルテール台本 悲劇『中国の孤児 <i>L'Orphelin de la Chine</i> 』(1755)	×悲劇	×
15	ヴォルテール台本 悲劇『オリンピア <i>Olympie</i> 』(1764)	×悲劇	×
16	ジャン・ラシーヌ台本 悲劇『バジャゼット <i>Bajazet</i> 』	×悲劇	×
17	バーナード・ジョセフ・ソラン台本 悲劇『ブランシェとギスカー <i>Blanche Et Guiscard</i> 』	×悲劇	×
18	ジャン＝ジャック・ルフラン・ド・ボンピニオン台本 悲劇『ディドン <i>Didon</i> 』	×悲劇	×
19	ピエール・コルネイユ台本 悲劇『メデア <i>Médée</i> 』	×悲劇	×

犬輔：コメディ・フランセーズなのに、クレロンが出演したと記録されている芝居は全て悲劇なんだね。ぼくたちが探しているのは喜劇だから、残念ながら該当しないんだ。

鳥代：骨折り損のくたびれ儲けでしたね。

教授：ご苦労なことであったが、諦めずにフランス物の調査をさらに続けることを勧める。

鳥代：シュテファニーが用いている演題『利発な田舎娘 *Die galante Bäuerin*』は『18 世紀の劇場定期刊行物』に載っていませんから、もしかしたらフランス語の原題があって、その台本がフランス語のまま出版されていたのかも知れません。そこで、これをフランス語に訳して“*Paysanne galante*”で検索してみてもはどうでしょう…。あら、台本は何もヒットしませんね。普通名詞でならたくさんあるようですけれど。

犬輔：それではドイツ語とフランス語で共通の“*galante*”だけをキーワードとして検索してみましょう…。あつ、フローラン・カートン・ダンクール *Florent Carton Dancourt* (1661-1725) の喜劇『勇敢な庭師 *Le galant jardinier*』がヒットしました。でも 1 件だけです。

鳥代：劇中劇のレーシェンは確かリンゴを売っていました。フランス語の“リンゴ *pomme*”もキーワードにしてみましょう。

犬輔：レーシェンのフランス語訳は“ローゼ *Rose*”ですね。その名をタイトルとする作品にミシェル＝ジャン・スデーヌの 1 幕の喜劇『ローゼとコラ *Rose et Colas*』がありました。

鳥代：そのほかのキーワードもいくつか混ぜてみるわね。

犬輔：フランス語台本の判定は、鳥代さんお願いします。

鳥代：いいわ。検索結果を表 12 にまとめて評価しましょう。

表12 フランス語の台本から

No.	台本名	原典候補の判定項目	判定
20	フローラン・カートン・ダンクール台本 喜劇『勇敢な庭師 <i>Le galant jardinier</i> 』(1704)	○表題に <i>Galant</i> × <i>Galant</i> なのは男性	×
	表題だけでは庭師が男なのか女なのか不明ですが、配役表を見ると庭師はルカという男性。		
21	シャルル・ジャコブ・ギルマン台本 1幕の喜劇『想定された兵役登録あるいは朝のうるさい女 <i>L'Enrôlement Supposé, ou la Matinée poissarde</i> 』(1782)	○リンゴの売り子 ○捕らぬ狸の皮算用 ×男性は冷静	×
	市場に店を構えているマダム・シモンとその息子ギヨム。この息子は兵役を務めることになり、彼の恋人ファンションはリンゴの売り子で、マダム・シモンが何時も口うるさく冷たく当たることに悩んでいます。ファンションはギヨムに計画を話します:「あなたのお母さんはハレ[屋根付き市場]に素敵なお店を持っています、非常に堅固で、非常に立派なお店です。私は私で、自分の目録を持っていて、私がパリで試しているものが載っています、そしてあなたはそれをすべて持つことになりまます。この皮算用は劇中劇とよく似ていますが、こちらは実現不可能なことではなさそうです。それにギヨムは商売を冷静に判断しており、劇中劇のミヒェルのようには調子に乗っていません。		
22	フィリップ・ネリコー・デトゥーシュ台本 3幕の散文喜劇『偽りの無邪気な娘あるいは田舎の詩人 <i>La Fausse Agnès ou Le Poète campagnard</i> 』(パリ 1734) 注12	△叔母に仕込まれた自惚れ ×男性に愛想をつかされる	×
	男爵が娘アンジェリークの結婚を望んでおり、レアンドレとマズレスという候補がいます。このうちアンジェリークとのシーンがあるのはマズレスの方で、彼女が何でも知っているというので色々質問します。「君はおそらく地理、寓話、哲学、年表、歴史をよく知っていると思いますが、どれが最も得意ですか」「歴史です」「ではアレキサンダーとシーザーのどちらが、またスキピオとハンニバルのどちらが好きですか」などの会話を交わします。しかし、実際にはパクトロスが川の名前[オウィディウスの《転身物語》出典]であることすら知らないほどの彼女のメッキは簡単に剥がれてしまいます。マズレスは呆れて「君が結婚したいなら相手はどこにでもいるでしょう。もうぼくを候補にしないでくれ」と言います。それでも彼女は彼と結婚したいというのです。		
23	フィリップ・ネリコー・デトゥーシュ台本 3幕の喜劇『使い古された愛 <i>L'Amour usé</i> 』(1779)	×若いカップルの手助け	×
	若いアンジェリークと騎士は恋人同士ですが、二人だけのシーンはありません。その代わり女中のリゼットと側仕え(そばづかえ)のフロンタンには二人だけのシーンが与えられています。この二人が相談している中身は、ご主人たち若いカップルに横恋慕している年寄連中を撃退することです。ゆくゆくは自分たちも結婚するつもりで。		
24	ミシェル＝ジャン・スデーヌ台本 1幕の喜劇『ローゼとコラ <i>Rose et Colas</i> 』(パリ 1764)	×自然の教訓の賛美 ○レーシェン似のローゼ	×
	コラの妹ローゼがマテュランと結婚式を挙げることになり、喜びのくヴォードヴィルで幕を閉じますが、そこでは自然を賛美するルソーの“自然の教訓”のヴァリエーションの一つが試行されています注13。ローゼは「私が自然の法を忘れたならば、愛が自然を教えてくれるでしょう」と歌い、マテュランは「自然が法を制定したらすぐに、私たちは自然を擁護する必要があります」と歌います。		
25	シャルル・シモン・ファヴァール台本 オペラコミック 喜劇『村の雄鶏 <i>Le Coq de village</i> 』(パリ 1743)	×少女の恋心を扱う	×
	男女二人だけの場面はゴゴーとタベリオン[法律関連の公務員の職種名]および、コギーとピエロによるものがある。11歳の女の子ゴギーはタベリオンからテレーゼとピエロがうまくいっていないと聞き、ピエロに淡い恋心を抱きます。そしてゴギーはピエロに会うと、テレーゼからの花束を持っているのを見てあからさまに嫉妬するのです。		
26	フィリップ・ネリコー・デトゥーシュの台本からドイツ語翻訳 5幕の喜劇『大嘘つきあるいは騙された年寄りの愚か者 <i>Der Erzlügner oder der alte betrogne Narr</i> 』(ベルリン 1772)	×百姓娘は登場しない	×
	配役全員が伯爵あるいは男爵関連の人物。		
27	フランス物からのドイツ語翻訳 3幕の音楽喜劇『ユリー <i>Julie</i> 』(ヴィーン 1779)	×百姓娘は登場しない	×
	フォン・アルテンブルクの娘ユリーの恋人はフォン・シェーンフェルト。彼女にはお付の女中がいます。		

鳥代：フランス語の台本からは原典候補はさっぱり見つからなかったですね。

犬輔：やるだけはやりました。教授にはご不満かも知れませんが、もうここまでにしておきましょう。

鳥代：致し方のないことです。

### 5.3.4 イタリア語の台本から

犬輔：フランス語で該当がないなら、イタリア語の“百姓女”に相当する“contadina”で検索しましょう。

鳥代：もう、手当たり次第ね。

表13 イタリア語の台本から

No.	台本名	原典候補の判定項目	判定
28	カルロ・フランキ曲 音楽道化劇 <i>Burletta in musica</i> 『忠実な百姓女 <i>La Contadina fedele</i> 』 (ヴィーン 1771)	×恋人と逃亡の相談	×
	百姓女ローレッタは伯爵から結婚を申し込まれるが、断られる。ローレッタは恋人ナルディーノに伯爵からの復讐の危険を知らせ、すぐに逃げるようにと言う。		
29	ジュゼッペ・ペトロセッリーニ台本/ニコロ・ピッチニ作曲 音楽滑稽劇 <i>Dramma Giocoso per musica</i> 『奇妙な百姓女たち <i>Le contadine bizzarre</i> 』 (ヴィーン 1767)	×二人だけの会話無	×
	ブッフア役 of 恋人同士はアウレッタとナルドネだが、二人だけのシーンはなし。		
30	ジュゼッペ・パロンバ台本/ドメニコ・チマローザ作曲 音楽喜劇 <i>Commedia per musica</i> 『指物師 II <i>Falegname</i> 』 (ヴィーン 1780)	×恋人設定が異なる	×
	年配の指物師ソツィオと兵士の未亡人エレナ、悪漢ドン・ヴェラルドと彼が海で捕らえたアフリカ女性アナジルダの二組の恋人。但しエレナとドン・ヴェラルドはかつて夫婦を誓った仲。		

犬輔：お手上げですね。もう草臥(くたび)れましたよ。

教授：候補が絞られるまで、とことん調査を続けるように。

犬輔：(小声で) 鬼の教授だ。いくら時間があっても足りないよ。

鳥代：詳細を讀んでの判定はもうあきらめましょう。台本を一瞥で判定するくらいでないと続かないわ。

### 5.3.5 ドイツ語の台本から

犬輔：気を取り直して、ドイツ語の台本に戻って検討しましょう。“Bäurin”“Bäuerin”“Bauern”をキーワードにしますよ。もう中身は斜め読みして判断します。表14です。

表14 ドイツ語の台本から

No.	台本名	原典候補の判定項目	判定
31	アントーニオ・サッキーニ作曲 2幕の <i>Azzione comica per musica</i> 『宮廷の百姓娘 <i>La Contadina in Corte</i> 』 ( <i>Eine musikalische Vorstellung</i> “ <i>Die Bäuerin am Hofe</i> ” の対訳付き) (ハノーファー1770)	×複雑な二組の男女	×
	ルッジェーロ(暗い湖の男爵、サンドリーナの恋人)、サンドリーナ(ベルトに恋をしている村娘)、タンチア(ベルトに恋をしている村娘)、ベルト(サンドリーナに恋をしている百姓)		
32	ヴィーラントに基づきマクシミリアーン・ウルブリヒ台本 3幕の <i>Ein komisches Singspiel</i> 『青い蝶 <i>Der blaue Schmetterling</i> 』 (ヴィーン 1781)	×二人の絡みがない	×
	農夫 <i>Bauernjunge</i> ペドリッロ、農婦 <i>Bauernmädchen</i> テレジツラの他に農民の合唱がある。		

犬輔：表8、9、10も含めてドイツ語台本の調査はこれで十分でしょう。

鳥代：なかなか候補が見つかりませんね。

### 5.3.6 有名作品から

教授：諸君たちはキーワードを設定して検索したが、キーワードだけが縁(よすが)とは限らない。有名作品が検討漏れにならないように一応確認しておきたまえ。

鳥代：はい、フランス語では以下の作品が有名ですが、候補にはなりません。ラ・ショッセ *Pierre-Claude Nivelle de La Chaussée* 『偽りの反感 *La Fausse Antipathie*』(1733)、『流行の偏見 *Le Préjugé à la mode*』(1735)、『メラニード *Mélanide*』(1741)、マリヴォー *Pierre Carlet de Chamblain de Marivaux* 『愛と偶然との戯れ *Le Jeu de l'amour et du hasard*』(1730)、スデーヌ *Michel-Jean Sedaine* 『知らずして哲学者 *Le Philosophe sans le savoir*』(1765) などです。

犬輔：ぼくはドイツ語の作品を当たりましたが、これも候補にはなりません。レッシング 『エミーリア・ガロッチィ』(1772)、シラー *Johann Christoph Friedrich von Schiller* 『たくみと恋 *Kabale und Liebe*』(1784)、ウムラウフ *Ignaz Umlauf* 『抗夫たち *Die Bergknappen*』(1778) などです。

### 5.3.7 残り物には福がある？

教授：何か気に掛かっていることは残っていないかね。何でもいいから言ってみなさい。

犬輔：一旦フランス語は諦めました、イタリア語にもドイツ語にも該当候補が見つからないとなると、フランス語の作品ではないかという仮説がまたもや頭をもたげて来ました。

鳥代：わたしは、もしフランス語だったら、台詞の引用や登場人物の名前の流用ではなくて、内容がキーワードになるのではないかとも思うわ。

犬輔：例えば「年齢差婚」「財産目当て婚」などがキーワードとなりえますね。

教授：検索範囲が拡散してよからぬ方向に行きそうだから、私からは直接的なアドヴァイスをしよう。諸君たちが最近この談話室で言及したことのある舞台作品で、今回まだ対象としていないものはないだろうか。

鳥代：はい、さかのぼって2017.6.4の談話室でドゥーニ Egidio Duni(1708-75)のオペラ・コミック《二人の狩人と牛乳売り娘 Les deux chasseurs et la laitière》(1763 パリ初演)に言及しました。日本で最初に上演されたオペラとしての紹介です。

教授：オペラの内容は把握しているかね。

鳥代：(焦って)それが、まだなのです。すぐに調査に取り掛かります。

犬輔：このオペラ・コミックはラ・フォンテーヌの二つの寓話を元にしていてそうですね。該当する寓話は「乳絞り女と乳壺」「クマと二人の仲間」で表15のとおりです。後者はイソップの「クマと旅人」と似ていますが教訓が異なっていますよ。



図7 ジャン・ド・ラ・フォンテーヌ

表15 ラ・フォンテーヌの寓話から

乳絞り女と乳壺 <sup>注14</sup> La laitière et le pot au lait	クマと二人の仲間 <sup>注15</sup> L'ours et les deux compagnons
<p>乳絞り女ペレットは頭の上に牛乳を入れた壺をのせ、小さなスカートと平らな靴を履き町へ急ぐ。早くも胸算用。乳の売り上げで100個ばかり卵を買って、雛に孵(かえ)し念入りに世話をするから首尾は上々。「私には易しいことだ」と独り言。「家の周りで雛鳥を育てるぐらい、豚を一匹買えるお金は手許に残る。その豚を太らせる餌も僅かで足りる。手放す日には、たんまりお金が入る筈。そのお金で牛小屋に牝牛と子牛を入れたとて誰も文句はつけやしまい。子牛は小屋の真ん中で跳ねるだろう」ペレットはその途端、われを忘れて跳ね上がる。乳壺は落ち、子牛も牝牛も豚もひよこも、おさらば！こぼれたお宝を恨めしそうに眺めやり、亭主への言い訳をしに戻る。</p>	<p>二人組がクマの王様の皮を先に売ります。ものすごく暖かいよ、などと言って。森にクマを捕りにいったものの、実際にクマを目にすると怖くなり、一人は木に登り、一人は死んだふりをして、結局クマを捕まえることはできませんでした。最後に、ことわざが出てきます。クマを地面に倒す前にクマの皮を売るな。(Vendre la peau de l'Ours qu'on ne l'ait mis par terre.)</p> <p>[イソップの「クマと旅人」では「危ない時に友達を捨て、自分だけ逃げるような薄情な相手とはもう別れろ」とクマが囁いたことになっている]</p>

鳥代：オペラ・コミックの台本作者はルイ・アンソーム Louis Anseaume (1721-84)で、内容は寓話とほとんど同じだということが分かりました。表16にあらすじを示します。

犬輔：アンソームは作曲者の名前に隠れてしまっていますね。肖像画を探してもWebにはありませんでした。

表16 1幕のComedie《二人の狩人と牛乳売り娘 Les deux chasseurs et la laitière》のあらすじ




図8 E・ドゥーニ

クマを仕留めて皮を売ろうと狩人のコラとギヨーは森に来ました。ギヨーは性急にもクマの皮を売るときに稼ぐであろうお金をリキュールのボトルに投資していました。彼らが飲んでいるとクマを見つけます。しかし、撃つのが遅かったため、クマは逃げていってしまいました。

若くて明るい牛乳売り娘のペレットが、市場に出る途中で舞台上で登場します。ギヨーは彼女におべんちゃらを言い、冒険的企てにより金持ちになるだろうと述べます！彼女は愚かな夢だと彼を笑う一方、自分が成功する元となる現物を掴んで見せびらかします：それは彼女の牛乳壺です！彼女は牛乳を卵と交換し、次に鶏を山羊と交換し、その後群れになった山羊を牛や馬に交換します。そして彼女は裕福な農婦になるのです。

場面は変わって、突然コラが息を切らして登場。クマに追われています。ギョ



一は木に登りますが、コラは地面に横になって死んだふりをします。驚いたことに、クマは彼を傷つけることなく、おびえて固まった狩人の周りを回って転がるだけでした。そして逃げ去ります。  
 惨めなペレットが泣きながら舞台に戻ってきました。牛乳が地面にこぼれたため、彼女の計画はすべて消えてしまい、彼女の後悔と壊れた水差しの持ち手だけが残されました。  
 ギョーはもう一度最愛のペレットを誘惑しようとしてますが、彼女は再び否定します：今や彼女も彼も何も持っていないので、将来についての計画を立てることは不都合で以前より価値がないからです。  
 コラはクマが彼の耳に直接囁やいた教訓を学び、納得しました：「私を捕まえる前に私の皮を売らないでください！」。運命は私たちを優しく揺り動かすことができますが、それはまた次の瞬間私たちをひっくり返すこともできます！ 「クマは間違っていない！」

- 犬輔：こんな寓話を元にしたオペラ台本なんて、と思ったんですが、《魔笛》も少なからずお伽噺の要素や教訓染みた要素があるから、当時の民衆には受け入れられたんでしょうね。
- 教授：ドゥーニのオペラ・コミックは大いに上演されたらしい。少なくともドイツ語、オランダ語に翻訳され、文政年間の 1820.10、長崎の出島に駐在する商館員らが、長崎奉行などを前に上演された日本最初となるオペラ上演はオランダ語だった。「まげと刀の侍たちが大いに笑った」という記録が残っている。
- 鳥代：ドイツ語の台本はコミック『二人の狩人と牛乳売り娘 Das Milchmädchen und die beiden Jäger』のタイトルで 1772 に出版されたマンハイム版が Google Books にあったわ。
- 犬輔：内容は全くフランス語版と同じだね。
- 教授：ではそのドイツ語版がシュテファニーの『利発な百姓娘』の原典となりうるか、チェックをしてみたまえ。
- 鳥代：男女がそれぞれに“捕らぬ狸の皮算用”をしているところが一致しています。
- 犬輔：ドイツ語版の百姓娘の名前がレーシェンで一致しています。
- 教授：一致していないところはあるかね。
- 鳥代：皮算用の内容が全く異なります。
- 犬輔：二人の狩人はそれぞれ農民で、カスパールとニクラスです。ミヒェルではありません。
- 教授：一致する台詞はあったかね。引用された原典であると断定するためには、物理的な一致が必要だ。
- 鳥代：では三者の台詞を比較してみましょう。表 17 です。

表 17 劇中劇『利発な田舎娘 Die galante Bäuerin』と原典候補の比較

ルイ・アンソーム台本 エジディオ・ドゥーニ作曲 《二人の狩人と牛乳売り娘 Les deux chasseurs et la laitière》 (パリ 1763)	ドイツ語版 コミック『二人の狩人と牛乳売り娘 Das Milchmädchen und die beiden Jäger』 (マンハイム 1772)	シュテファニー 『劇場支配人』 劇中劇『利発な田舎娘』 引用冒頭 (1786)
GUILLOT, Serviteur, mademoiselle Perrette. [中略] Et où allezvous donc, comme ça si matin? PERRETTE, Où je vais? Au marché, vendre mon lait.	CASPAR. Guten Tag, Jungfer Röschen. [中略] Wo will fie denn schon fo früh hin? RÖSCHEN. Wo ich hin will? Auf den Markt, meine Milch zu verkaufen.	PUF "Guten Morgen, Röschen! wohin so früh?" MADAME FOGELSANG "In die Stadt."
ギョー こんにちは、ペレット。 [中略] こんなに早くどこに行く？ ペレット わたしがどこに行くかですって？ 牛乳を売り に市場へ。	カスパール こんにちは、レーシェン。 [中略] こんなに早くどこに行く？ レーシェン わたしがどこに行くかですって？ 牛乳 を売りに市場へ。	プーフ (ミヒェル) 「お早う、レーシェン、 こんなに早くどこ へ？」 フォーゲルザング夫人 (レーシェン) 「町へ」

- 犬輔：これだけでも一致していれば、『二人の狩人と牛乳売り娘 Das Milchmädchen und die beiden Jäger』が劇中劇『利発な田舎娘』の原典であることに間違いありません。
- 鳥代：その場合、皮算用の内容が異なることに関しては、シュテファニーが自作したものと意図的に差し替えたと考えられるね。
- 犬輔：振り返ってみれば、複数の台本候補に類似箇所が沢山ありました。これらも偶然ではなく、各々をシュテファニーが取捨選択して引用した部分原典だと考えられるんだ。
- 教授：シュテファニーがそのように引用した狙いに関しては後日改めて検討することにしよう。

6. 劇中歌の原典同定および三重唱・終曲について

6.1 ヘルツ夫人のアリエッタ No.1「別れの時が鳴っている」の原典

犬輔：劇中歌にも原典があったとレイバーンが書いているので意外です。でもよく読んでみると、歌詞に元詩があるというだけで、曲がコピーだということではないようですので安心しました。

鳥代：今回は台本の調査なので曲のことについてはまだ考慮外です。

教授：レイバーンによれば、ヘルツ夫人のアリエッタ「別れの時が鳴っている」はヨハン・ヨアヒム・エシェンブルク Johann Joachim Eschenburg (1743-1820) の「別れ Die Trennung」(『ドイツ・ミュージック年鑑』1773 所収)<sup>注16</sup>が原典だとされている。尤もそれにはさらにオリジナルがあり、ピエトロ・メタスタージオ Pietro Metastasio (1698-1782) のカンツォネッタ『別れ La partenza』(1749) が手本だと言われている。



図9 エシェンブルク

犬輔：比較表を表18に示しましょう。

表18 アリエッタ No.1『別れの時が鳴っている』の原典比較

P・A・メタスタージオ カンツォネッタ「別れ La partenza」 (1749)	J・J・エシェンブルク 『別れ Die Trennung』 (1773)	シュテファニー『劇場支配人』 第7場 [Nr. 1 アリエッタ] ヘルツ夫人 (1786)
Ecco quel fiero istante; Nice, mia Nice, addio. Come vivrò, ben mio, così lontan da te?  Io vivrò sempre in pene, io non avrò più bene; e tu, chi sa se mai ti sovverrai di me!  Soffri che in traccia almeno di mia perduta pace venga il pensier seguace su l'orme del tuo piè.  Sempre nel tuo cammino, sempre m'avrai vicino; e tu, chi sa se mai ti sovverrai di me! [以下14連まであり]	<b>Da schlägt des Abschieds Stunde, Um grausam uns zu trennen; Wie werd' ich leben können, O Mädchen, ohne dich?</b>  Ein Fremdling aller Freuden Leb' ich noch, um zu leiden, <b>Und du -- vielleicht auf ewig Vergißt nun Daphne mich!</b>  Ein schwärmender Gedanke Malt dann mit schwachen Zügen Mein schwindendes Vergnügen, Und nie verläßt er dich!  Mein Geist wird, dir zur Seiten, Dich, wo du gehst, begleiten; <b>Und du -- vielleicht auf ewig Vergißt nun Daphne mich!</b>	<b>Da schlägt des Abschieds Stunde Um grausam uns zu trennen; Wie werd ich leben können O Damon! ohne dich!</b>  Ich will dich begleiten Im Geist dir zur Seiten Schweben um dich! <b>Und du! - - vielleicht auf ewig Vergisst dafür auf mich!</b>  Doch nein, wie fällt mir so was ein! Du kannst gewiss nicht treulos seyn. Ein Herz das so der Abschied kränket, Dem ist kein Wankelmuth bekannt Wohin es auch das Schicksal lenket! Nichts trennt das festgeknüpfte Band.
今や酷い時が来た、ニーチェよ、 僕のニーチェ、さようなら。 僕はどう生きて行こう？ お前から遠く離れて。  僕はずっと苦しみながら生きていく、 もはや正気ではいられないだろう。 そしてお前は、僕をまだ思い出して くれるのか。誰がそれを知ろう！  僕が考えるのだけは許してくれ 今は失われた平和を求めて 来い、僕の思索よ、 こだわるのは君の足跡。  君が旅する間、 君はいつも僕の近くにいるだろう。 そしてお前は、僕をまだ思い出して くれるのか。誰がそれを知ろう！	別れの時が鳴っている、 僕たちを残酷に引き離す。 僕はどう生きて行こう おお、少女よ、お前なしで！  すべての楽しみを知らずにさまよい 僕は苦しみながらまだ生きている そして、お前は — おそらく永遠に 僕を忘れてしまうんだ、ダフネは！  とりとめのない考えは 次第に、弱気とともに 僕の減っていく喜びを支配する この考えがお前から離れない！  僕の精神は、お前の側に、 どこへ行っても付いて行く。 そして、お前は—おそらく永遠に 僕を忘れてしまうんだ、ダフネは！	別れの時が鳴っている、 私たちを残酷に引き離す。 私はどう生きて行こう おお、ダーモン、貴方なしで！  私は貴方と一緒にいきたい 貴方の心の一隅で 貴方に思いを廻らせない！ でも貴方は！ — おそらく永遠に 私を忘れてしまうのね！  いいえ！ そう思っははいけないわ！ 貴方は決して不実ではありません。 別れのとても悲しい心、 それが浮気を知るはずはありません。 運命が何を支配しようとも、 しっかり結ばれた絆は分離できません。

鳥代：元々は男性の歌だったのをシュテファニーは女性の歌に変えて、愛をより強く歌いあげているわ。それにしてもシュテファニーの詩は幾つかの長い行を含む破格の形式ですね。

教授：メタスタージオの歌詞(2連まで)でモーツァルトは三重唱「いまこそあのむごい時が来た」K.436(1787)を作曲する。また、エシェンブルクの詩を元にしたシュミット Klamer Eberhard Karl Schmidt (1746-1824)の詩にもリート「別れの歌」K.519(1787)を作曲している。つまり、この詩のテーマはモーツァルトにお気に入りのものとなる。

6.2 ジルバークラング嬢のロンド No.2「凛々しい若い方！ 私は喜んで」の原典

犬輔：ジルバークラング嬢のロンド「凛々しい若い方！ 私は喜んで」の原典はヨハン・マルティン・ミラー Johann Martin Miller (1750–1814) の「愛の絆 Der Liebesbund」(『集大成から厳選された詩集』1773 所収) であるとレイバーンが指摘しています。

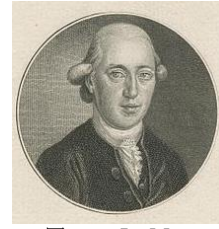


図10 J・M・ミラー

鳥代：最初の呼び掛けこそ同じですが、8行詩と4行詩の違いがあります。本当に原典に値するの表19で比較しましょう。

教授：ところで男性を **Bester Jüngling** と呼ぶなら、女性を何と呼ぶかね。

犬輔：**Bestes Mädchen** でしょう。“最愛の男子”に“最愛の女子”です。

教授：それはすでに名前呼び合っている親しい二人が改まって呼ぶ場合の例だと思われる。マイスナーの2幕のジングシュピール『ムフティの墓あるいは2頭の山羊 Das Grab des Mufti oder die zwei Geißigen』(1776) では **Bester Jüngling** と **Süßes Mädchen** で呼び合っている。“凛々しい若い方”および“可愛いお嬢さん”というわけだ。

表19 ロンド No.2『凛々しい若い方！ 私は喜んで』の原典比較

ヨハン・マルティン・ミラー 「愛の絆 Der Liebesbund」 (1773)	シュテファニー『劇場支配人』 第8場 [Nr.2 ロンド] 初版台本 ジルバークラング嬢 (1786)	シュテファニー『劇場支配人』 第8場 [Nr.2 ロンド] 新全集から歌詞 ジルバークラング嬢 (1786)
<p><b>Bester Jüngling.</b> meinst du's ehrlich? O so bin ich deine Braut. Aber, Himmel! wie gefährlich Wird auf Jünglingswort gebaut! Bis ihr unser Ja erlauschet, Seid ihr alle fromm und gut; Aber dann, ach dann! vertauschet Ihr den sanften Lämmermut. Leben, Ehre, Glück und Habe Trau' ich <b>deinen Händen</b> an, Bin von nun an bis zum Grabe Dir mit Liebe zugethan, Laß in ihren alten Tagen Meine fromme Mutter hier; Freud' und Leid mit dir zu tragen, Folg' ich, bester Jüngling, dir. O, du kannst mich nicht berücken; Oder Tugend wäre Tand, Und dies Herz in deinen Blicken Trög' im himmlischen Gewand! Ja, ich glaube diesem Schweigen, Diesen Thränen, diesem Blick! Erd' und Himmel sollen zeugen, Weich' ich je von dir zurück!</p>	<p><b>Bester Jüngling!</b> mit Entzücken! nehm ich deine Liebe an, da in deinen holden Blicken ich mein Glück entdecken kann.  Nichts ist mir so wert und teuer als dein Herz und <b>deine Hand</b>, voll vom reinsten Liebesfeuer geb ich dir mein Herz zum Pfand.  Aber ach! wenn düsters Leiden unsrer Liebe folgen soll, lohn dies der Liebe Freuden? Jüngling! das bedenke wohl!</p>	<p><b>Bester Jüngling!</b> mit Entzücken! nehm ich deine Liebe an, da in deinen holden Blicken ich mein Glück entdecken kann.  Aber ach! wenn düsters Leiden unsrer Liebe folgen soll, lohn dies der Liebe Freuden? Jüngling! das bedenke wohl!  Nichts ist mir so wert und teuer als dein Herz und <b>deine Hand</b>, voll vom reinsten Liebesfeuer geb ich dir mein Herz zum Pfand.</p>
<p>凛々しい若い方、正直にそう思いますか? ああ、私はあなたの花嫁です。 でも、神様！なんて危険なのでしょう 若々しい言葉の上に築かれているものは！ 貴方が私たちの“はい”を聞くまで、 貴方は敬虔で善良ですか？ でも、その後、ああ！貴方は 穏やかな愚かな勇気に交換するでしょう。 人生、名誉、幸福と財産、 私は<b>貴方の手</b>を信頼し 今から墓に入るまで 愛をこめてあなたを崇拜します。 私の敬虔な母は 昔に去りました、 喜びと悲しみは貴方とともに、 私は貴方に、凛々しい若い方に従います ああ、貴方は私を迷わすことはできません。 道徳は愚かしいものだとも仰っても、 あるいは、貴方の目に映るこの心は 天上の衣装に纏われた器だと仰っても！ 私はこの静寂、この涙、 見たままを信じます！ 天と地は見届けるでしょう、 貴方から身を引くのを踏みとどまるのを！</p>	<p>凛々しい若い方！ 私は喜んで 貴方の愛を受け入れます 貴方の美しいまなざしに 私は幸せを見出します。  最も純粋な愛の炎でいっぱい 貴方の心と<b>貴方の手</b>ほど 貴重で価値のあるものではありません。 私は貴方に誓約の心を捧げます。  でも、ああ！ 悲観的な苦しみが 私たちの愛に続いたら この喜びは愛に相応しいのでしょうか？ お若い方！ よく考えてください！</p>	<p>凛々しい若い方！ 私は喜んで 貴方の愛を受け入れます 貴方の美しいまなざしに 私は幸せを見出します。  でも、ああ！ 悲観的な苦しみが 私たちの愛に続いたら この喜びは愛に相応しいのでしょうか？ お若い方！ よく考えてください！  最も純粋な愛の炎でいっぱい 貴方の心と<b>貴方の手</b>ほど 貴重で価値のあるものではありません。 私は貴方に誓約の心を捧げます。</p>

鳥代：シュテファニーは原典の最初の1連半だけを参考にして3連構成にし、歌詞はその第2連と第3連を交換しています。三者間には愛の絆に対する微妙な温度差が生じていますね。

教授：モーツァルトはミラーの別の詩にリート「満足」K.349(367a) (1780–81) を作曲している。モーツァルトにとっても馴染みのある詩人であったわけだ。

### 6.3 三重唱 No.3 「私は第一歌手よ」の先行アイデア

犬輔：この三重唱はルイ・ウルト・ダンクール Louis Hurtaut Dancourt (1725–1801) 台本／クリストフ・ヴィリバルト・グルック Christoph Willibald Gluck (1714–87) 作曲の『思いがけない巡り会い La rencontre imprévue』(ヴィーン 1763) と速度・強弱標語を取り込んでいる点で似ているとレイバーンが指摘しています。ドイツ語訳の『思いがけない巡り会いあるいはメッカの巡礼 Die unvermutete Zusammenkunft oder Die Pilgrime von Mekka』がケルントナートーア劇場 (1776) およびブルク劇場 (1780) で上演されています。1780 版で比較しましょう。

表 20 三重唱 No.3 『私は第一歌手よ』の原典比較

ダンクール『思いがけない巡り会い あるいはメッカの巡礼』ドイツ語版 第 3 幕 第 8 場から (1780)	シュテファニー『劇場支配人』 第 9 場 [Nr. 3 三重唱] 初版台本 (1786)	モーツァルト《劇場支配人》 第 9 場 Nr. 3 三重唱 歌詞 新全集から (1786)
BALKIS. Ist's ein <b>Adagio</b> ? HERR SCHWINDEL. Signora, no. OSMIN. Ein <b>Allegro</b> ? HERR SCHWINDEL. No, Signor, no. BALKIS. Ein <b>Andante</b> ? HERR SCHWINDEL. No. OSMIN. Ein <b>Cantabile</b> ? HERR SCHWINDEL. No. BALKIS. <b>Spiritose</b> ? <b>Amoroso</b> ? HERR SCHWINDEL. No, no, no, no, no. OSMIN. <b>Allegretto</b> ? <b>Stacato</b> ? <b>Pizzicato</b> ? HERR SCHWINDEL. No, no, no, no. Et un <b>prelto</b> <b>Preflissimo</b> . Cofì, cofì, cofì. Cofì, cofì, cofì. Tri, tri, tri. Tri, tran, tri. Pri, pri, pri. Pri, pran, pri. Tour, lour, lour, relan' Pran, pran, pran. Larela, larela, larela. Lerele, lerele, lerele. Lireli, lireli, Lireli. Lorelo, lorelo, lorelo. Lurelu, lurelu, lurelu, La, le, li, lo, lu. Li, lo, lu. Re, lu. Lu, lu, re, lu. Re, lu. Re, lu.	MADemoiselle SILBERKLING Ich bin die Erste Sangerin. MADAME HERZ Das glaub ich, ja, nach Ihrem Sinn. MADemoiselle SILBERKLING Das sollen Sie mir nicht bestreiten. MADAME HERZ Ich will es Ihnen nicht bestreiten. MONSIEUR VOGELSANG Ei, lassen Sie sich doch bedeuten. MADemoiselle SILBERKLING Ich bin von keiner zu erreichen, das wird mir jeder eingestehn. MADAME HERZ Gewiss, ich habe Ihresgleichen noch nie gehort und nie gesehn. MONSIEUR VOGELSANG Was wollen Sie sich erst entrusten, mit einem leeren Vorzug brusten, ein jedes hat besondern Wert. MADAME HERZ, MADemoiselle SILBERKLING Mich lobt ein jeder, der mich hort. MADAME HERZ <b>Adagio! Adagio!</b> MADemoiselle SILBERKLING <b>Allegro! Allegrissimo!</b> MONSIEUR VOGELSANG <b>Piano! Pianissimo!</b> Kein Kunstler muss den andern tadeln, es setzt die Kunst zu sehr herab. MADAME HERZ Wohlan! nichts kann die Kunst mehr adeln, ich steh von meiner Fordrung ab. MADemoiselle SILBERKLING Ganz recht! nichts kann die Kunst mehr adeln, ich stehe ebenfalls nun ab.	MADemoiselle SILBERKLING Ich bin die Erste Sangerin. MADAME HERZ Das glaub ich, ja, nach Ihrem Sinn. MADemoiselle SILBERKLING Das sollen Sie mir nicht bestreiten. MADAME HERZ Ich will es Ihnen nicht bestreiten. MONSIEUR VOGELSANG Ei, lassen Sie sich doch bedeuten. MADemoiselle SILBERKLING Ich bin von keiner zu erreichen, das wird mir jeder eingestehn. MADAME HERZ Gewiss, ich habe Ihresgleichen noch nie gehort und nie gesehn. MONSIEUR VOGELSANG Was wollen Sie sich erst entrusten, mit einem leeren Vorzug brusten? ein jedes hat besondern Wert. MADAME HERZ, MADemoiselle SILBERKLING Mich lobt ein jeder, der mich hort. MADAME HERZ <b>Adagio, adagio.</b> MADemoiselle SILBERKLING <b>Allegro, allegrissimo.</b> MONSIEUR VOGELSANG <b>Pian piano, pianissimo, pianississimo.</b> Kein Kunstler muss den andern tadeln, es setzt die Kunst zu sehr herab. MADAME HERZ Wohlan! nichts kann die Kunst mehr adeln, ich steh von meiner Fordrung ab. MADemoiselle SILBERKLING Ganz recht, nichts kann die Kunst mehr adeln, ich stehe ebenfalls nun ab. MADAME HERZ, MADemoiselle SILBERKLING Ich bin die Erste Sangerin. Ich bin von keiner zu erreichen MONSIEUR VOGELSANG Ei, ei, <b>piano, piano, pian piano, piano,</b> <b>piano, pianissimo. Piano, piano,</b> <b>calando, mancando, diminuendo,</b> <b>decrescendo. Pian piano, pianissimo.</b>

<p><b>バルキス</b> それはアダージョですか？ <b>シュヴァインデル氏</b> いいえ、お嬢さん。 <b>オスミン</b> アレグロ？ <b>シュヴァインデル氏</b> いえ、オスミンさん、いえ。 <b>バルキス</b> アンダンテ？ <b>シュヴァインデル氏</b> いや。 <b>オスミン</b> カンタービレ？ <b>シュヴァインデル氏</b> いや。 <b>バルキス</b> スピリトーゼ？ アモローゾ？ <b>シュヴァインデル氏</b> いや、いや、いや、いや、いや。 <b>オスミン</b> アレグレット？ スタッカート？ ピッツィカート？ <b>シュヴァインデル氏</b> いや、いや、いや、いや。 それはプレスト プレスティッシモ。 コスイ、コスイ、コスイ。 コスイ、コスイ、コスイ。 トゥリ、トゥリ、トゥリ。 トゥリ、トゥラン、トゥリ。 ブリ、ブリ、ブリ。 ブリ、ブラン、ブリ。 トゥア、ルア、ルア レラン ブラン、ブラン、ブラン。 ラレラ、ラレラ、ラレラ。 レレレ、レレレ、レレレ。 リレリ、リレリ、リレリ。 ロレロ、ロレロ、ロレロ。 ルレル、ルレル、ルレル。 ラ、レ、リ、ロ、ル。 リ、ロ、ル。 レ、ル。 ル、ル、レ、ル。 レ、ル。 レ、ル。</p>	<p><b>ジルバークラング嬢</b> 私は第一歌手よ。 <b>ヘルツ夫人</b> (皮肉を込めて) 貴方の感覚によるとそうでしょうよ。 <b>ジルバークラング嬢</b> 私のことを否定してはいけません。 <b>ヘルツ夫人</b> (皮肉を込めて) 貴方のことを否定したくありません。 <b>フォーゲルザング氏</b> まあ、お二人とももつとはっきりと。 <b>ジルバークラング嬢</b> 私は誰からも手が届きません 誰もがそれに同意するでしょう。 <b>ヘルツ夫人</b> (皮肉を込めて) 確かに、私は貴方のような人 聞いたことも見たこともない。 <b>フォーゲルザング氏</b> お二人は何に憤慨しているのですか 空しい優位を振りかざして。 それぞれ特別な価値があるのですよ。 <b>ヘルツ夫人、</b> <b>ジルバークラング嬢</b> 私を聴いた人は誰でも私を賛美します。 <b>ヘルツ夫人</b> アダージョ、アダージョ。 <b>ジルバークラング嬢</b> アレグロ、アレグリッシモ。 <b>フォーゲルザング氏</b> ピアノ、ピアノニッシモ。  他の芸術家を責めてはいけません。 それは芸術を冒涇することになります。 <b>ヘルツ夫人</b> そうそう、芸術に対する大きな犠牲は存在し得ない！ 私は自分の主張をあきらめます。 <b>ジルバークラング嬢</b> まったくその通り。芸術に対する大きな犠牲は存在し得ない！ 私も今、あきらめます。</p>	<p><b>ジルバークラング嬢</b> 私は第一歌手よ。 <b>ヘルツ夫人</b> (皮肉を込めて) 貴方の感覚によるとそうでしょうよ。 <b>ジルバークラング嬢</b> 私のことを否定してはいけません。 <b>ヘルツ夫人</b> (皮肉を込めて) 貴方のことを否定したくありません。 <b>フォーゲルザング氏</b> まあ、お二人とももつとはっきりと。 <b>ジルバークラング嬢</b> 私は誰からも手が届きません 誰もがそれに同意するでしょう。 <b>ヘルツ夫人</b> (皮肉を込めて) 確かに、私は貴方のような人 聞いたことも見たこともない。 <b>フォーゲルザング氏</b> お二人は何に憤慨しているのですか 空しい優位を振りかざして。 それぞれ特別な価値があるのですよ。 <b>ヘルツ夫人、</b> <b>ジルバークラング嬢</b> 私を聴いた人は誰でも私を賛美します。 <b>ヘルツ夫人</b> アダージョ、アダージョ。 <b>ジルバークラング嬢</b> アレグロ、アレグリッシモ。 <b>フォーゲルザング氏</b> ピアン ピアノ、ピアノニッシモ、ピアノニッシッシモ。 他の芸術家を責めてはいけません。 それは芸術を冒涇することになります。 <b>ヘルツ夫人</b> そうそう、芸術に対する大きな犠牲は存在し得ない！ 私は自分の主張をあきらめます。 <b>ジルバークラング嬢</b> まったくその通り。芸術に対する大きな犠牲は存在し得ない！ 私も今、あきらめます。 <b>ヘルツ夫人、</b> <b>ジルバークラング嬢</b> 私が第一歌手よ。 私は誰からも手が届きません。 <b>フォーゲルザング氏</b> まあ、まあ、ピアノ、ピアノ、ピアン ピアノ、ピアノ、ピアノ、ピアノニッシモ、ピアノ、ピアノ、カランド、マンカンド、ディミヌエンド、デクレシェンド、ピアン ピアノ、ピアノニッシモ。</p>
---	---	--

鳥代：『思いがけない巡り会いあるいはメッカの巡礼』はフランス語版を元にしてようやく 2009 に日本初演されたのね。あらすじが紹介されているわ<sup>注17</sup>：「海賊に襲われ、離れ離れになった恋人レジア（ペルシアの王女）を探すアリ（バルソラの王子）は、エジプトのカイロにたどり着く。そこへ三人の美女（バルキ、ダルダネ、アミーヌ）が次々にあらわれ、アリを誘惑しようとするが、実はレジアが、自分への恋心を試すために侍女たちを使って誘惑させていたのだった。誘惑に落ちなかったアリはレジアとの再会を果たすが、狩りに出かけたスルタンが怒って戻ってきたと聞き、托鉢僧に頼んでメッカの巡礼にまぎれて逃げようとする。しかし托鉢僧が裏切り、スルタンに捕まってしまう。そこで従者や侍女たちが、レジアとアリの深い愛を訴え、それを聞いて心動かされたスルタンは結局二人を許す」。バルキスはバルキのこと、オスミンはアリの奴隷、シュヴァインデル氏は画家よ。

犬輔：《後宮からの誘拐》とよく似た筋ですね。尤も《後宮からの誘拐》はクリストフ・フリードリヒ・ブレッツナーの原作なので、シュテファニーに直接の関係はありませんけど。

## 6.4 終曲「すべての芸術家は名誉のために」について

教授：シュテファニーが台本に「終曲 *Schlußgesang*」と書いていることから、ヴォードヴィールで幕を閉じることが既に台本で指示されていることになる。

鳥代：モーツァルト関連でヴォードヴィールとは、フィナーレの一つの様式として使われる用語ね。ヴォードヴィール・フィナーレは、各節に同じ音楽が付き、登場人物それぞれが短い詩を順に歌い、多くの場合、全員が歌うリフレインで終わります。特に最後の詩にはアンサンブル全体が参加します。通常、最初の詩は物語の教訓を提供し、中間の詩は筋の中の特定の出来事についてコメントし、最後の詩は観客にその楽しさを直接訴えろと言うわ。時には詩に舞踊が伴うことがあるそうよ<sup>注18</sup>。

犬輔：音楽的な指示も台本作者が出すんですね。

教授：シュテファニーとモーツァルトとで折り合いがつかないように見えるところがある。台本では 10 名全員が合唱に参加することになるが、モーツァルトの指示では、はじめの 3 つの合唱は歌手 3 名で、最後の合唱はプーフを含めた 4 名での歌唱となっており、他の 6 名は舞台の上で何もすることがないまま幕が下りることになる。このことについては後日改めて議論することにしてしよう。

## 7. まとめ

教授：諸君たちの台本調査を見ていて、モーツァルトがイタリア語のオペラ台本探しをしたときのことを思い出したよ。

鳥代：ヨーゼフ 2 世が「ドイツ国民劇場」の方針を 1783 に転換、ブルク劇場で再びイタリア語オペラを上演するようになった時のことですね。

犬輔：ヴィーンからザルツブルクの父宛ての 1783.5.7 付け手紙です。「いま当地では、イタリア語のオペラ・ブッフアがまた始まって、たいへんな人気を呼んでいます。[中略] ぼくは軽く 100 冊は、いやそれ以上の台本を読みましたが、それでも満足できるのはほとんどひとつもありませんでした。少なくとも、あちこち大幅に変更しなくてはならないでしょう」と言っています。

教授：モーツァルトと違って諸君たちには、翻訳してから読むという一手間が必ず介在する。そのハンディキャップを考慮すれば、45 冊を超える台本を調査したのはご苦労なことだ。その結果、従来不明であった劇中劇の原典が、シェルダンの『判明した事実』およびアンソームの『二人の狩人と牛乳売り娘』であると突き止められたのは快挙であった。今後とも、日本人のハンディキャップをものともせずモーツァルト研究に勤しんでほしい。

注 1：モーツァルトの『全自作品目録』記載のタイトル。

注 2：モーツァルト歌劇《劇場支配人》アーノンクール指揮 / CMW, BELVED08035 (2002)

注 3：Mozart: Der Schauspieldirektor, K486, English Chamber Orchestra / André Previn, Sony 88985470422

注 4：Mozart: Der Schauspieldirektor, K486, Koch / Berlin CO, Berlin Classics BC9136, Brilliant Classics BRL92540, BRL94051

注 5：Mozart: Der Schauspieldirektor, K486, European Chamber Soloists / Nicol Matt, Brilliant Classics BRL93184, BRL95010

注 6：オペラ対訳プロジェクト < <https://www31.atwiki.jp/oper/> >

注 7：オペラ対訳プロジェクト Der Schauspieldirektor 劇場支配人 < <https://www31.atwiki.jp/oper/pages/2252.html> >

注 8：Christopher Raeburn: Die textlichen Quellen des "Schauspieldirektors", in Österreichische Musikzeitschrift, Bd.13 (1958), 1958.01, S. 4-10. 論文複写には福地勝美氏のお世話になった。記して感謝する。

注 9：Wolfgang F. Bender, Siegfried Bushuven, Michael Huesmann: Theaterperiodika des 18. Jahrhunderts, 1750 - 1780, Walter de Gruyter, 2012 および Wolfgang F. Bender, Siegfried Bushuven, Michael Huesmann: Theaterperiodika des 18. Jahrhunderts, 1781-1790, Walter de Gruyter, 2011

注 10：カルロ・ゴルドーニ台本/ゴットフリート・ウーリヒ訳『賢明な夫人 Die vernünftige Frau』(1768 以前) は同タイトルの別作品である。図書館等の書誌データには両作品を混ぜこぜにしているものがあるので要注意。

注 11：Johann Philipp Siebenkees, tr. by Conrad Ludger: The life of Bianca Capello, wife of Francesco de'Medici, 1797

注 12：この作品を元にカルロ・ゴルドーニが《ラ・フィンタ・センブリーチェ》を制作、その第 3 幕をマルコ・コルテッリーニが改訂した台本にモーツァルトが K.51 を作曲した。なお原題にある「アニェス Agnès」が「無邪気な娘」という意味を持つのはモリエールの『女房学校』(1662) 以来で、その主人公の名前に由来する。

注 13：Hermann Abert, ed. by Cliff Eisen, tr. by Stewart Spencer: W.A. Mozart, Yale University Press, 2007, p.455

注 14：ブログ「Cafe Gallery ☆未知流☆」 < <https://blogs.yahoo.co.jp/michilu2215/25963017.html> > を参照

注 15：ブログ「フランス語の扉を開こう〜ペンギンと」 < <https://furansu-go.com/52-bear/> > を参照

注 16：Almanach der deutschen Musen, bearb. von Christian Heinrich Schmid, Leipzig: in der Schwickertschen Buchhandlung, 1773, pages 39 - 41 < [http://www.lieder.net/lieder/get\\_text.html?TextId=64099](http://www.lieder.net/lieder/get_text.html?TextId=64099) >

注 17：ブログ「Taubenpost〜歌曲雑感」 < <http://franzpeter.cocolog-nifty.com/taubenpost/cat21664827/index.html> > を参照

注 18：Wikipedia: Comédie en vaudevilles. ヴォードヴィール・フィナーレは初期のオペラ・コミックの一般的な特徴となった。一方コメディ・フランセーズやアカデミー・ロワイヤル・ド・ムジークで上演された作品にはほとんど採用されなかったが、例外はコメディであり、前者の例はピエール・ボーマルシェの劇『フィガロの結婚』(1784)、後者の例は、ジャン=ジャック・ルソーの『村の占い師』(1752) である。モーツァルトの場合は K.384, K.486, K.527 がヴォードヴィール・フィナーレを伴っている。

(2019 年 7 月 27 日作成、2021 年 11 月 27 日修正)



## 後日の談話室

教授：劇中劇に関して補足したいことがあるようだね。

犬輔：はい、第 6 場の劇中劇における言い回しで、未検討のものがありましたので、ここで明らかにしておきたいと思います。

鳥代：私にも同じ部分で補足したいことがあります。

## 8. 喜劇への偏見

犬輔：第 6 場の劇中劇で、喜劇に出演する夢を語るレーシェンに対しミヒエルが「喜劇では観客は救われない」と言っていましたけどどういう意味なのでしょう？

教授：その答への近道は出典を探すことだ。検索するのだったら“Komödie selig werden”をキーワードにしてはどうかね。検索対象を書籍に、期間を 18 世紀に限定することは言うまでもない。

犬輔：トップにイグナーツ・フランツ著『待降節の最初の日曜日から復活祭の最後の日曜日まで、年間の日曜日の福音に関する宗教的演説集 Geistliche Reden über die Sonntagevangelien durch das Jahr』（1782）がヒットしました。どれどれ、えーと、該当部分はここです。「待降節の第 4 日曜日」の章の第 1 節「真の悔い改めは心を変えなければならない」のところに「あなたは特定の芝居やコメディに誘われませんでしたか？ そのような仲間から去り、自分をそのような友人から引き離しなさい<sup>注 19</sup>。もしあなたが救われたいなら、不道德な芝居やコメディから離れなさい」という説教がありました。

鳥代：すべての芝居や喜劇が不道德だとは言っていないけれど、これを聞いて、「救われたかったら芝居やコメディから離れるのが無難だ」と思ってしまう人もいるわね。

犬輔：ミヒエルもそう思ったとすれば、ずいぶんナイーブな青年なんだ。

## 9. 校長先生への揶揄

鳥代：続けてレーシェンは「新しいセッティングにすれば、観客はあの校長先生のようにすんなり天国に行くわ」と言います。“セッティング Einrichtung”はカバーする範囲が広い言葉ですので、ここでは「台本の構成」「舞台装置」「劇場設備」「劇団構築」などを包含させて、“不道德でないセッティング”と曖昧に解釈しておきましょう。

犬輔：ぼくは“校長先生”にずっと引っかかっていたんだけど、なぜ校長先生なんだろう。

教授：校長先生は宗教的教育も担うからだろう。18 世紀の資料にはよく出てくる。因みに“Einrichtung Schulmeister”で検索すると学校校舎を“建設する校長”の話が沢山ヒットする。

犬輔：多分それは今回無関係ですよ。“昇天する校長先生”のイメージをフィックスするのが先決です。

鳥代：それでは“Himmel Schulmeister”で 18 世紀の書籍を検索してみるわ…。あら、不思議！デンマークの舞台作品がヒットしました。もっともドイツ語訳されたものですけれど。

犬輔：ルズヴィ・ホルベア（ルートヴィヒ・ホルベルク）Ludvig Holberg（1684–1754）<sup>注 20</sup>の喜劇 Lustspiel『クリスマスの飾り部屋 Die Weihnachtsstube』（コペンハーゲン 1761、ゴータ 1782 など）ですね。ここで校長先生はどうやって天国に行くんでしょうか。

鳥代：訳してみるしかないわ。でもコペンハーゲン版（1761）は pdf の読み取りがうまくいかないの、窮余の策でライプツィヒのホルベア（ホルベルク）全集版（1822）から翻訳するわね。異同があって、貧しい少年アーヴ（デンマーク語で“継承”“遺産”の意）は、コペンハーゲン版ではハンスという名前に変えられていたけれど、全集版ではオリジナルが尊重されアーヴに戻されているの。表 21 では原文を割愛して抜粋の訳文だけにするわね。

表 21 ルズヴィ・ホルベア（ルートヴィヒ・ホルベルク）の喜劇『クリスマスの飾り部屋』

<p>[1761 年版から] このコメディの登場人物は、                  老人で職人のイエロニムス。                  彼の若い兄弟の妻、レオノーラ。                  ペルニツレ、彼女のメイド。                  レアンダー、レオノーラの恋人。                  イエロニムスの姉、マグダレーナ。                  アーヴ [ハンス]、イエロニムスのしもべ。                  校長。                  6 人の子供。                  何人かのイエロニムスの隣人。                  何人かの警備員。</p>
---

第10場

イエロニムス：悪魔の悪戯とはどういう意味だ？

アーヴ：旦那、私はユール・ゴートです [ユール・ゴート= Weihnachtsbock は北欧の神話に因む二頭の山羊。元々は吉凶の双方をもたらすとされ、日本のナマハゲのような存在であったが、キリスト教と同化して、クリスマスのプレゼントの運び手や轡を引く役目を持つ。藁で作られた山羊としてクリスマス飾りにもされる]！

イエロニムス：(彼に平手打ちをする) お前がユール・ゴートだと？

アーヴ：(口ごもり) いいえ、旦那、私はユール・ゴートではありません。

イエロニムス：では、どういう意味だ？

アーヴ：私はユール・ゴートを紹介したいだけです。

イエロニムス：(彼にもう一度平手打ちをする) お前はユール・ゴートを紹介したいだけなのか？

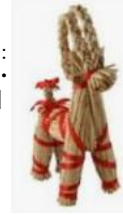
アーヴ：いいえ、私はユール・ゴートを紹介したいわけではありません、旦那！

マグデローネ：弟よ、あなたは聖なる夜に貧しい少年を殴ったことで自ら罪を犯しています。

イエロニムス：まっすぐに進みなさい、悪戯者。手に本を持ってそれを読みなさい。それはお前の役に立つ。

アーヴ：(泣きながら) 今夜クリスチャンが神様の一言を読み、祈るのなら、私は悪魔になりたい。(退場)

[右図：  
ユール・  
ゴート]



第12場 [1761年版では第13場]

(子供たちがペアで進み、校長は片手に本、もう片方の手に杖を持ち最後尾につく。彼は子供たちを一列からペダンティックな弓状に並べ直し、大きな声で吟じ始める。) -

去れ、災難の雲よ！ 去れ、黒い霧のドラゴンよ！

朝焼けを抜け、太陽を笑わせよ。

私はネイロス川の如き、肥沃な汝に接近する、

そして当地に洪水を起こし、豊饒を約束する。

我らの水源を開け、ああ、幸運を！ そして噴出させる。

枝の上の小鳥のように自由に …… - - - -

(繰り返す) 枝の上の小鳥のように自由に …… そしてポケットに手を伸ばす。

イエロニムス：そして、お粥と麵を食べさせる、のようによければいいのに、韻を踏んでいませんよ？

校長：そうでした。では最初からやり直さなければなりません。(戻って繰り返す)

…… 日常のほこりを払わせる：

それは人生のルールのために常に良く、

庭にたくさんの植物が咲く、

ビールとブランデーが決して地下室からなくならず、

バター、肉と魚はいつも台所に備え怠らず、

小麦粉が木と泥炭とともに、常にそこにあり、

この村で心臓がまだ鼓動している限り。

イエロニムス：(帽子を脱ぐ) 貴方のおかげです、校長！ 貴方はたぶん多くの問題を抱えていた。

ペルニツレ：他の誰が頭を悩ましていたでしょう。校長はすべてを自由に使えました。

イエロニムス：子供たちにはこの祝祭で他に何を学ばせますか？ 去年、彼らはとても多くの美しいことわざを知りました、今年もそれらのうちのどれかを学ぶのでしょうか？

校長：了解しました、イエロニムスさん、ちょっとした詩あるいは謎々はどうですか？

イエロニムス：両方ともいいですね。アーヴを参加させましょう。小さな子供たちが彼を恥じ入らせるのを聞くことになるでしょう。

(ペルニツレがアーヴを連れて来る。彼は手を組んでそこに立ち、敬意を表して聞く)

イエロニムス：校長、まずアーヴに尋ね、子供たちの一人に彼を恥じ入らせましょう。

校長：アーヴ、あなたは世界中に聞こえるほどの大声で叫んでいましたね。

アーヴ：(耳をかいて) それは —— ユール・ゴートが原因でした。

イエロニムス：ユール・ゴートはまだ彼の頭の中でうなっています。

校長：クリストフ、ヘニング、ペーター、エルゼ、マリー、アンナ、世界中に聞こえるほど大声で叫んだのは誰でしょう？

皆：それは箱の中のロバです。そこに全世界が囲まれていました。

イエロニムス：チェッ、恥を知れ、懲りない悪戯者！ 子供たちに答えられてしまったではないか。

校長：アーヴ、ここからガラスの天国までの距離は？

アーヴ：ここからマリアージュまでの7マイルです。

校長：クリストフ、ヘニング、ペーター、エルゼ、マリー、アンナ、ここからガラスの天国までの距離はどれぐらいでしょう。

皆：ガラスの天国から水晶の天国までの距離です。

イエロニムス：聞きなさい、子供たち！ 人差し指で他の指を軽くこすって、皆でアーヴを軽蔑しなさい。(子供たちは全員そのジェスチャーをする [デンマーク、ドイツ・オーストリアにおける軽蔑の所作])

校長：アーヴ、天国は全部でいくつあるか？

アーヴ：すべてのベッドの上に天国があり、ベッドの数だけ非常に多くの天国があります。

校長：クリストフ、ヘニング、ペーター、エルゼ、マリー、アンナ、全部で天国はいくつあるのでしょうか。

皆：互いに等距離にある7つの天国があります。

イェロニムス：もう一度軽蔑のジェスチャーを！  
 子供たち：軽くこすれ -こすれ -こすれ！  
 校長：クリストフ、最初の天国は？  
 クリストフ：青い天国です。  
 校長：ヘニング、第二の天国は？  
 ヘニング：ミルクの天国です。  
 校長：ペーター、第三の天国は？  
 ペーター：ガラスの天国です。  
 校長：子供たち、質問されている間は手をきれいに組みなさい。  
 (彼らは手を組む。)  
 校長：エルゼ、第四の天国は？  
 エルゼ：水晶の天国です。  
 校長：マリー、五番目の天国は？  
 マリー：ダイヤモンドの天国です。  
 校長：アンナ、第六の天国は？  
 アンナ：真珠の天国です。  
 イェロニムス：もう一つだ！  
 校長：アーヴ、第七の天国は？  
 アーヴ：それは…、とりあえず第八にしましょう。  
 イェロニムス：こいつは本当の畜生だ。一年中本を手にしなないので、自分がトルコ人や異教徒レベルに過ぎないことを知っている。校長先生、いくつかの質問を彼に答えさせてください。  
 校長：はい、いいでしょう。アーヴ、卵のように丸く、教会の壁のように長いものは何でしょう？  
 アーヴ：(そっと) その質問により死刑執行人があなたを導きます。(大声で) これはタバコのパイプです。頭は丸く、茎は長いでしょう。  
 校長：クリストフ、ヘニング、ペーター、エルゼ、マリー、アンナ、卵のように丸く、教会の壁のように長いものは何でしょう？  
 皆：それは縄(もつ)れた紐です。それを巻き取るとき、それは教会の壁と同じくらい長いのです。  
 イェロニムス：子供たち！ 皆の人差し指で他の指を軽くこすって、アーヴを軽蔑しなさい。  
 子供たち：軽くこすれ -こすれ -こすれ！  
 イェロニムス：子供たちのためにアーヴに感謝しましょう、校長先生。彼が子供たちに再び勤勉さを示したのを私は見ました。彼はお正月に存在理由が証明されるでしょう。(子供たちの下におもちゃを置く) さあ！ さて、子供部屋に戻るのがいいでしょう。

鳥代：校長先生は、毎年クリスマスのお祝いの時期に、子供たちを教育するように依頼されるのですが、宗教的に説教できるわけではなく、謎々の形で展開するしかないのです。ところが子どもたちの方が一枚上手で宗教的にまともな答えが返ってくるので威厳を保つのも大変です。そこにアーヴの出来の悪さが挟まれ、むしろ助けられるという形です。アーヴは狂言回しなのでですね。

犬輔：ところで、これで校長先生は天国へすんなり行けたと言えるのでしょうか。

鳥代：子どもたちの助けを借りて、7つの天国巡りが出来たのよ。この後、子供たちからクリスマス芝居の開催是非を尋ねられて、校長先生はローマの貴族プリニウスの「芝居と楽しみ」についての言葉を引用したり、アリストテレスの言葉をギリシア語で諳んじたりしながら、クリスマス芝居の重要性を滔々としゃべるのです。

犬輔：つまりこの喜劇は教訓劇になりうるということかな。

教授：教訓劇とは厳密には「教訓主義 Didacticism に則って制作された劇」という専門用語である。教訓主義は本質的にエンターテインメントや芸術家の個人的な目標の追求を許さないものである。18世紀にはサミュエル・ジョンソンの『ラセラス The History of Rasselas, Prince of Abissinia』(ロンドン 1759)などが挙げられている<sup>注21</sup>。

犬輔：そんな本格的な教訓劇ではなく、メッセージ性が色濃い喜劇だと思っただけです。

教授：校長先生と天国に関する諸君たちの調査結果は当たらずと雖も遠からず、ということにしておこう。決定的証拠が見当たらないからね。もっと良い説明が出てくればそれに従うこともあり得るということだ。

注19：ドイツ語における再帰表現を直訳すると奇妙な日本語になることがあるが、最近オリジナルの日本語にも再帰表現(?)が散見され、意味不明になることがある。一例として、首都圏に限られるがラッシュアワーの駅のアナウンスで「ドア近くの方はお身体・お荷物を強くお引きください」という表現を挙げておく。私などは身体のどこに力を入れて強く引けばよいのか分からず、むずむずするのである。「鉄道用語」と割り切るしかないが…。

注20：ホルベアは「デンマーク文学の父」とも「北欧のモリエール」とも呼ばれる。グリーグと同じノルウェーのベルゲン生まれ。当時ノルウェーがデンマーク統治下にあったことから主にコペンハーゲンで活動した。

注21：Wikipedia: Didacticism